「多文化共生のための地域づくりワークショップ」
報告書

2024 年３月８日

岩手県県南広域振興局
富士大学異文化交流センター

目　　次

Ⅰ「 多文化共生の地域づくりのためのワークショップ」の概要

１．ワークショップ開催の経緯と目的（木村）
２．ワークショップの実施経過と主な内容（関上）
３．ワークショップの成果と課題（関上）

Ⅱ「地域における多文化共生アンケート」の概要と主な結果（中村）
１．目的
２．実施期間
３．調査対象
４．調査方法
５．調査票
６．回収状況
７．アンケート結果
８．小括

Ⅲ　次年度に向けた課題（小林）

資料集
　１．ワークショップの記録（関上）
　２．アンケート集計結果（小林・中村）
　３．運営体制（各回参加者）の記録（関上）

※本報告書作成担当者
　中村良則（富士大学経済学部教授・副学長、異文化交流センター長）
　木村　毅（富士大学経済学部教授、異文化交流センター）
　関上　哲（富士大学経済学部教授、異文化交流センター）
　小林麻美（富士大学経済学部講師）

富士大学経済学部教授影山一男氏、同准教授髙坂紀広氏にはグラフ作成に多大な協力を得た。また、岩淵由良さん、菊池風伽さん、昆野佳祐君（いずれも本学経済学科３年生）はアンケート集計作業を担当した。記して謝意を表す。

Ⅰ　「多文化共生の地域づくりのためのワークショップ」の概要

１．ワークショップ開催の経緯と目的

「多文化共生社会」は急速に進展し地域経済の活性化、まちづくり、グローバルな相互理解などの観点からも無視できない重要なテーマになってきている。また、異文化を背負って日本で生活している人々との協調・協働がなければ日本の地域経済が委縮してしまう状況に陥りかねないという危機感さえ感じている日本人も少なくない。

さらに、少子高齢化、人口減少、労働力不足が進展する日本社会では、新たな技術開発はもとより、日常の衣食住に関わる産業、農業、工業、医療、教育、芸術など、多方面に渡り彼らとの共生を図りながら地域を支え、世界から取り残されることのない持続可能な社会を目指していかなければならない時代でもある

「多文化共生の地域づくりのためのワークショップ」は、多文化共生社会の実現を目指し、その意識をいかにして日本社会に取り込んでいくかを模索し、また、将来の私たちの生活にどのように備えていけばよいのか、そのための諸課題をいかに解決し持続的発展を継続して行くかという思いを込めた取り組みである。

令和５年２月に岩手県県南広域振興局と富士大学は地域と共同し、多文化共生社会に対する地域の実情や住民の意識を探り、持続可能な多文化共生社会を推進していくことで合意し、具体的な事業展開の方向性について話し合いを進めていくこととした。

同年６月６日、県南広域振興局と富士大学は多文化共生社会の実現を目指し、そのための諸課題の解決と多文化共生地域経済社会の持続的発展を図ることを目的として、富士大生を中心とするワークショップ開催で合意し、岩手県県南振興局長小島純氏と富士大学学長岡田秀二氏が覚書（別紙資料１）を交わした。

その中では、「多文化共生のまちづくりに資する知見（興味・関心、考察、問題解決力と具体的行動）を県南地域の若者に提供して多文化共生の街づくりの未来につながる主体者を育てること」を目的とし、「異文化の外国人を積極的に地域に受け入れるために、異文化理解の必要性を啓発し、若者を中心とした市民のコミュニケーション能力及びスキルを育成すること」と、「若者が自主的に多文化共生のための研修、考察、イベント企画へ参画することにより、外国人を迎え入れるコミュニティを形成する能力を培い、地域のまちづくりに活かすこと」を両社の連携の基本的な目標とした。

そのために、「県南地域の若者及び外国人居住者」を対象に「多文化共生社会を実現するための実践の場」としてワークショップを開催し「その成果を地域住民と共有すること」にした。

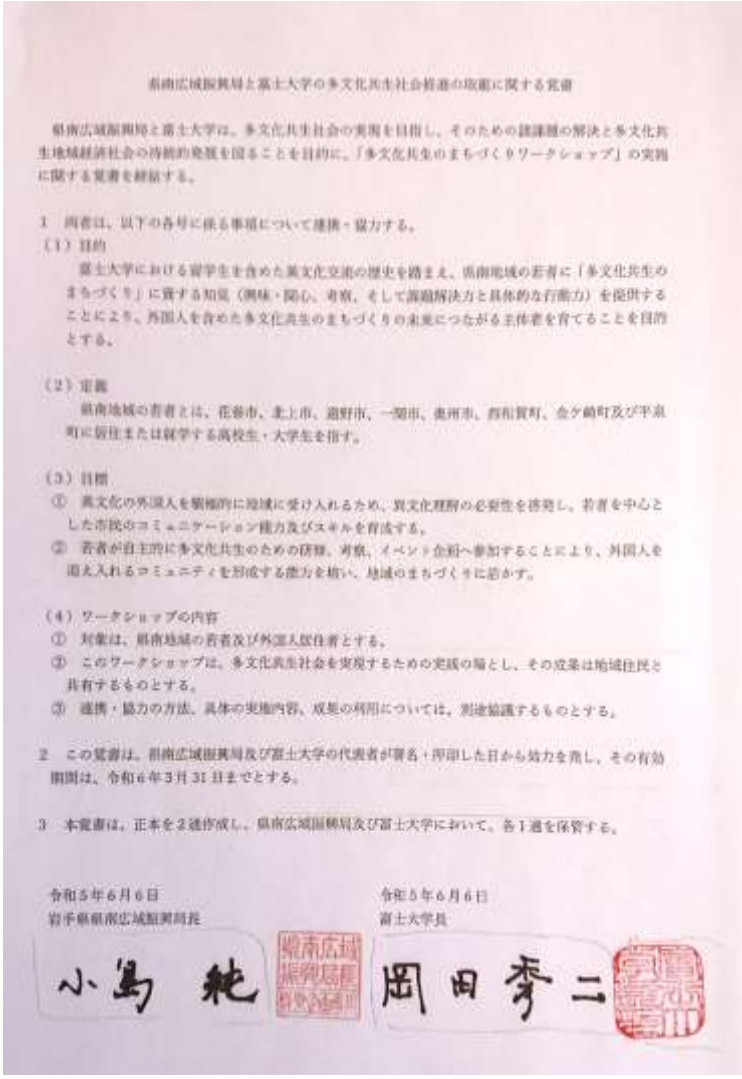
ワークショップは覚書締結に先立ち、５月から開始し、10 月までの全５回の日程で開催した。参加者は富士大学の留学生と一般の日本人学生、花巻農業高校生、花南地区の住民代表の方々、他花巻国際交流協会、花巻市国際交流室ほかの方々の参加と支援を得

て、毎回十数名前後の参加者で実施された。その中で最大の比重を占めているのは富士大生、花巻農業高校生、花南地区住民の方々を対象に実施された「多文化共生アンケート」であり、多文化共生に対する地域の多様なニーズと課題の把握を目的として実施された。アンケートの詳細は、後段に詳述されているが、このアンケートから得られた知見をもとにしたワークショップでの議論の結果は、10 月 14 日に開催された第５回ＷＳで発表された。第５回ＷＳは同日開催の富士大学紫陵祭事業の一環としても開催され、多くの一般の方々の参加も得て盛況のうちに終了した。

本報告書は第５回を含む全５回のＷＳの記録を取りまとめたものである。今年度の活動の総括であると同時に、次年度以降の活動への足がかりとなるものである。

なお、本節にはワークショップ開催の起点となった県南広域振興局と富士大学との覚書、およびその後のＷＳの基調講演ともなった第１回講義の資料を掲載する。

資料１．多文化共生社会推進の取組に関する覚書



県南広域振興局と富士大学の多文化共生社会推進の取組に関する覚書

県南広域振興局と富士大学は、多文化共生社会の実現を目指し、そのための諸課題の解決と多文化共生地域経済社会の持続的発展を図ることを目的に、「多文化共生のまちづくりワークショップ」の実施に関する覚書を締結する。

1　両者は、以下の各号に係る事項について連携・協力する。

（1）目的

富士大学における留学生を含めた異文化交流の歴史を踏まえ、県南地域の若者に「多文化共生のまちづくり」に資する知見（興味・関心、考察、そして課題解決力と具体的な行動力）を提供することにより、外国人を含めた多文化共生のまちづくりの未来につながる主体者を育てることを目的とする。

（2）定義

県南地域の若者とは、花巻市、北上市、遠野市、一関市、奥州市、西和賀町、金ケ崎町及び平泉町に居住または就学する高校生・大学生を指す。

（3）目標

① 異文化の外国人を積極的に地域に受け入れるため、異文化理解の必要性を啓発し、若者を中心とした市民のコミュニケーション能力及びスキルを育成する。

② 若者が自主的に多文化共生のための研修、考察、イベント企画へ参加することにより、外国人を迎え入れるコミュニティを形成する能力を培い、地域のまちづくりに活かす。

（4）ワークショップの内容

① 対象は、県南地域の若者及び外国人居住者とする。

② このワークショップは、多文化共生社会を実現するための実践の場とし、その成果は地域住民と共有するものとする。

③ 連携・協力の方法、具体の実施内容、双方の利用については、別途協議するものとする。

2　この覚書は、県南広域振興局及び富士大学の代表者が署名・押印した日から効力を発し、その有効期間は、令和６年３月31日までとする。

3　本覚書は、正本を２通作成し、県南広域振興局及び富士大学において、各１通を保管する。

令和５年６月６日
岩手県県南広域振興局長
小島　純

令和５年６月６日
富士大学長
岡田秀二

資料２.「第１回講義資料」

多文化共生社会の現状と課題」(2023 年５月 20 日(土)、富士大学教授　木村毅)

１　文化とは何か

文化は人間によって創り出されたものであり、[1]「言葉、技術、社会関係、価値・態度など、学習を通してある集団の構成員によって共有される、意味のある体系である。」

また、文化は常に変化し、[2]ハイブリット（混合物）である。日本の伝統的な文化も時代や環境と共に変化する。実際、日本独特の文化と考えてきたものが実はアジアやヨーロッパが発生であるものが数多くある。

２　多文化共生の視点

他の文化を理解したり評価したりする際に、自文化中心からの視点は集団間で誤解や軋轢を生じさせ、集団間の緊張を高め、結果として衝突や紛争を引き起こすことにも繋がりかねない。従って、自文化とは異なる文化の視点や考え方を学び、複数の文化の視点からある文化を相対的に把握する捉え方が大切である。

さらに、世界を少し離れた立場から捉える視点、 あるいは、[3] 地球全体を俯瞰して捉えるグローバルな視点から眺め実感することも大切である。

３　外国人に対する認識

「ガイジン」という言葉は、日本社会で日々生活している外国人も外側の人（日本人ではない）と認識し、社会への参加が制限される可能性がある言葉である。日本で暮らす外国人が、[4]「何か集まりがあって参加すると、いつも私の隣は空いている。誰も座らない。私とってもさみしい。」というつぶやきが掲載されていた。勇気を出した接近することも国際理解の重要な第一歩にもつながるのである。

４　外国人に対する言説

「外国人の入居は堅くお断りします。」という張り紙などの差別は、偏見を持った特別な個人の偏見ではなく、**言説**に関わる社会的に流布している認識である。多くの日本人がそのような認識を抱いていることは間違いない。言説は社会的なものであり、ある事柄についての認識が社会的に流布されて実践されているものである。

５　外国人の「他者化」

「あのガイジンさんは日本語が上手ですよ。」という発言は、外国人は一時的な滞在者であり、永住者ではないという見方を暗に示唆している。さらに、「あのガイジンさんは日本語が上手ですよ。」の発言には、「日本国籍ではない」という認識があり、自分とは異なった人間と見なす「他者化」の意識が働いている。

1990 年代に、外国人による犯罪の増加や凶悪化がメディアで取り上げられ、外国人は危険な訪問者として捉えられるようになったことがあったが、その裏では安全な日本、

日本人像を構築したともいわれている。

６　マイノリティとマジョリティ

多文化社会は文化的背景が異なる様々な文化集団から構成され、そこには、日本人と外国人、男性と女性、障がいのある者とない者、豊な者と貧しい者、など、分ける一線が画されている。そして、一つの社会の中で何がノーマルであるかは、マジョリティ側の基準や価値観によって形成される。したがって、マイノリティのものの見方や考え方は時にはマジョリティの社会の基準に合わないものとして排除されることもしばしばである。マイノリティはなかなかそれに気が付かないのである。

７　日本学校教育の中での外国人

学校教育の目標は、社会の形成者としての日本国民を育てることが当然のこととみなされ、教育現場は日本文化を前提とした不可視的な標準や規範の下で運営されている。外国人の子どもたちへの教育支援が必要な場面でもそれぞれの外国人の多様性について考慮することはほとんどない。日本の学校教育では教育システムを変えないことが基本であり、それが維持される範囲内での早期適応が実施されている。目指されているといえる。

脚注

1)「多文化共生」2011 年　松尾智明　明石書店

2)「ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙ化時代をいかに生きるか」2008 年　韓敬九･桑山敬己編集　平凡社

3)「世界を 100 人の村にたとえると」池田香代子（再話）（C.ﾀﾞｸﾞﾗｽ･ﾗﾐｽ[対訳]）、ﾏｶﾞｼﾞﾝﾊｳｽ

4)「みんなの知らない外国人のつぶやき」2016 年（公益財団 岩手県国際交流協会）

２．ワークショップの実施経過と主な内容

富士大学多文化共生社会のまちづくりワークショップは、第１回（５/20）～第５回（10/14）まで本学 542 教室において開催された。その記録は次の通りである。

第１回　多文化共生社会のまちづくりワークショップ

５月 20 日（土）本学 542 教室において、富士大学「多文化共生社会のまちづくりＷＳ」が開催した。

「多文化共生社会のまちづくりＷＳ」は、富士大学における長年の異文化交流の歴史を踏まえ、留学生を含む本学学生を中心に高校生にも呼びかけて地域における「多文化共生のまちづくり」に必要な知見と新たな視点の獲得を目的として開催された。岩手県南広域振興局並びに本学異文化交流センターが主催し、公財花巻国際交流協会にも協力により実施された。

当日は、本学教授の木村毅氏が「多文化共生社会の現状と課題」について講演し、その後、「身近に感じる多文化共生社会」と「多文化共生社会に期待すること」をテーマとしてワークショップを開催した。

開始直後は初めてのＷＳの試みから若干緊張感の感じられるものでしたが、徐々に留学生を交えた和やかなムードとなり、最後はグループごとの話し合いの成果が発表された。

２回目以降は、市内の高校生を交えた若い世代や市民の方々をも交えたＷＳを予定した。

第１回は富士大学異文化交流の新たな流れを感じさせる話し合いであった。

第２回　多文化共生社会のまちづくりワークショップ

６月 17 日（土）本学 542 教室において、富士大学「多文化共生社会のまちづくりＷＳ」が開催された。

第２回は花巻市役所生涯学習課国際交流室の髙山くみ子氏が、今年３月に策定された花巻市多文化共生推進プランについて説明した。

内容は、１.共生という言葉を知らない人と言葉の意味を理解していない人が約７割いる。２．生活に必要な日本語力が十分ではない外国人市民が多いが、日本語学習の機会が少ない。３．日本人との間に壁を感じている外国人市民がいる。４．生活や災害に関する情報が日本語のため、理解ができない外国人市民がいる。５．災害時の行動がわからない外国人市民がいる。６．地域活動に参加してみたいが、どのように参加してよいかわからない外国人市民がいるということで、そのような課題を解決するために同プランが作成されたと説明があった。

ＷＳでは、花南地区の文化祭において多文化共生をテーマとした交流を行うとしたら、何が実現できるのか、どんな内容で、誰にどんな案内をするのかなど、具体的に話し合いが行われた。このＷＳでは３グループに分かれ花巻国際交流協会や花巻市国際交流室の方々がファシリテーター役をしていただき、各グループでは活発な議論が交わされた。今回は花南コミュニティ会議からも４名の方々が参加し、総勢 28 名の方々が参加した。２回目は富士大学の留学生は４名参加し、花巻国際交流協会からは瀧澤クリスティーン・アリアナさんが流ちょうな日本語で活発に話しされ大盛況のうちに終了した。

次回は、花巻市内の高校生も参加し、富士大学の学生・留学生、市民の方々、国際交流協会の方々などのＷＳが計画された。

第３回　多文化共生社会のまちづくりワークショップ

７月 15 日（土）本学 542 教室において、富士大学第 3 回「多文化共生社会のまちづくりＷＳ」が開催された。当日は、異文化交流センター長である中村良則副学長が講義

を担当し、「地域における多文化共生の取組」を検討するために富士大生や花南地区の住民の皆さんを対象とするアンケート調査を行うこととし、アンケートの概要と今後の全体的なスケジュールを説明した。その後、班ごとにアンケートの基本的な視点や項目別の改善点について熱心な討議が行われた。

討議後の発表では「多文化共生」という言葉が、今日の国際化社会における重要用語であることは理解しているものの、その言葉自体が理解しづらいものであり、「地域で暮らすために外国の方々と関わり合いながら築いていくための関りの輪」と考えてはどうかという方向性がメンバーから示され、今後のＷＳの活動に大きな力となった。また、富士大学生や高校生にとっては花南地区の地域資産を知ること自体から始めることが肝要だとの指摘もあり、アンケート調査のあり方について大きな示唆が得られた。

全体討議の後、前回同様、花巻市国際交流協会の藤原正己氏が総評を述べ、盛会のうちにＷＳが終了したが、今回のＷＳからは花巻農業高校を代表して２名の生徒が参加した。高校生の意見がＷＳに反映されたことにより、ＷＳ全体が活気を呈するとともに、富士大学、花南コミュニティ会議、花巻農業高校の新たな連携の輪が形成され、多文化共生のための取り組みに向けて一層の弾みがついた。

「地域における多文化共生の取り組みアンケート」は、８月から９月にかけて富士大学、地域等で実施し、９月下旬までにアンケート結果を取り纏め、第４回ＷＳ（９/30予定）で多文化共生のための具体的な取り組み方向について検討する予定となった。

第４回　多文化共生社会のまちづくりワークショップ

９月 30 日（土）本学 542 教室において、富士大学第４回「多文化共生社会のまちづくりＷＳ」が開催された。８月から９月にかけて実施した「多文化共生アンケート」の集計結果について中村良則副学長/異文化交流センター長が解説し、その後、花南地域コミュニティ会議の方々と花巻農業高校生、富士大学生（留学生含む）が２班に分かれ、アンケート結果をもとに地域における多文化共生意識のありようを多角的に分析していった。特に、年代別の地域共生意識の相違とその背景についてゴミ出しのルールや騒音など、身近な問題を例として参加者全員が意見を出し合い、相互の意見のすり合わせを図っていく作業を行った。外国人との付き合いの有無による接し方の相違や留学生との意識の相違についてもアンケートを基に確認し、相互理解を深めるために大切な視点は何かについても話し合い、多文化共生社会実現のためになすべきことの認識を深める事が出来た。

次回（第５回）ＷＳは「多文化共生のためのまちづくり（仮）」として、「多文化共生アンケート」の結果を踏まえた上で多文化共生社会に必要なまちづくりの視点を総括していくとした。

また、次回のＷＳは「富士大学・紫陵祭」の一環として実施し、本学５号館 555 番教室で午前 10:30～11：30 により開催する予定とした。参加自由とし多くの方々の参加されることを期待した。

第５回　多文化共生社会のまちづくりワークショップ

富士大学第５回「多文化共生社会のまちづくりＷＳ」が、富士大学と県南広域振興局共催により「紫陵祭」第一日目の 10 月 14 日（土）本学 555 教室において開催された。

ＷＳは、岡田秀二富士大学学長が開会挨拶した後、当日の発表とディスカッションが行われた。内容的には、①「地域における多文化共生の必要性と課題について－ＷＳの振り返りと『多文化共生アンケート』について」を中村良則副学長/異文化交流センター長が講演し、②「主な特徴点の分析と評価」を経営法学科 2 年の竹荒伸洋が、③「多文化共生のまちづくりに向けた視点」を経済学科３年昆野佳祐がそれぞれプレゼン発表し、④その後のディスカッションを経て、花巻農業高校生、高橋孝太君と伊藤玲音君がＷＳ参加の感想を述べ、花巻市国際交流室次長加藤美枝氏、花巻国際交流協会理事・事務局長藤原正己氏から極めて有益なコメントをいただいた。

その後、県南広域振興局長の小島純氏より総合的な視点からの講評をいただいた。

当日のＷＳでは、外国人に対し日本文化を押し付けることが多文化共生ではないし、英語で話しかけることでもないことが確認された。また、正しい日本語で出来るだけ優しく短い日本語に置き換えて話すことが肝要であるなど、実際的で本質的なアドヴァイスが多く述べられ、今後の富士大学と学生・地域コミュニティの多文化共生の取り組みにとって大切な話し合いの場となった。さらに、国内労働力不足の中での外国人労働者受け入れのあり方についての質問が寄せられ、議論は熱を帯びたものになった。

今回のＷＳは５月より実施してきた全５回のＷＳを集大成するものであった。①地域における多文化共生の知見の共有、②多文化共生の未来につながる主体者の育成がＷＳ開設のそもそもの目的であったが、この目的は十分に達成されたことを実感させる第５回ＷＳとなった。次年度以降富士大学を中心とした多文化共生社会に向けた新たな歩みが進められるが、引き続き一層のご支援ご協力をお願い申し上げた。

以上が、富士大学多文化共生社会のまちづくりワークショップの第１回（５/20）～第５回（10/14）までの記録である。

３．ワークショップの成果と課題

ＨＰ掲載内容と各回のＷＳ実施内容を踏まえての成果と課題について以下の内容としてまとめた。

第１回目　「多文化共生の地域づくりのためのワークショップ」

（１）　成果

第１回目は多文化とは何かを主要課題としながら、「多文化共生の地域づくりのためのＷＳ」を実施した。日常、地域生活での異文化として目にする体験（姿、言葉）は何かについて話し合いが集中したように思われる。ただ、表面的に異文化を意識している点や、主に言葉の壁を多文化共生を考える際の意識としている点が明らかにされていた。その言葉の壁を乗り越えるための催しものなど、日頃、異文化を意識し生活している点が明らかにされたことから、ＷＳでは今後の活動の方向性として、料理を食べる機会を設ける、外国の歌を聴く、日本語学習などの機会を開催することなどが意見として出された。

（２）　課題

多文化共生のためには、言葉の壁を乗り越える努力やそのための方策等が意見として出された。今後の話し合いの方向性として具体的な活動は今後のＷＳの活動などで検討する必要があることが強く意識された。

第２回目　「多文化共生の地域づくりのためのワークショップ」

（１）　成果

第２回目の「多文化共生社会推進のためのＷＳ」は、花巻市の国際交流協会の次長から花巻市の実態を聞き、その後、花巻市で何が多文化共生のためにできるのかを主な課題としてＷＳが行われた。具体的には、趣味を通じた交流、学習として日本語を勉強することなどが意見として出された。自国語をいかに学習するかなどが話し合われた。その一環として歌を歌うことが意見としてだされ、自国語や外国語を通した歌から日常的なカラオケ等も良いのではないかとの意見が出された。また、料理交流会も良い機会になるのではないかとか、郷土料理を通じた「作った料理を食べる会」も良いのではないかとの意見も出された。また、年中行事などを利用して餅つき大会なども良いのではないかとの意見が出された。さらに、スポーツ界で活躍する選手が多くいる富士大学として新しいスポーツを考案しても良いのではないかとか、あるいは運動会を開催して花巻市民と留学生や海外労働者との交流の機会とすることも良いのではないかとの意見も出された。さらに、年齢ごとに好きなゲームを考案すること等も可能ではないかとも特色ある意見として出された。踊りについて民謡を歌いながら踊るのも良いのではないか

との意見も参加者から出された。さらに、外国居住者の住む地域の掲示板は日本語を「なるべく優しい日本語」を使用するなどしてチラシを作ることが必要であるとの意見が出された。

（２）　課題

食事会については、各国料理を作り、一緒に味わうことも良いが、中高校生や未成年者のいる機会では、アルコール飲食は注意する必要があるなどもっともな意見が出された。さらに、「地元食」の伝統文化を異文化理解のために実施することも一案であり、その際は、民族衣装などを集めることが必要となる。それには限界があるのではないかとの意見も出された。この点大いに今後工夫する必要があると感じられた。

第３回目　「多文化共生の地域づくりのためのワークショップ」

第３回目はアンケート内容作成のためのＷＳとして実施した。

（１）　成果

富士大学のキャンパスを利用した話し合いの場が良いのではないかとの意見が出された。高校生からは大学内で催される機会をもっと増やしてもらいたい。そして留学生と交流する場を大学内で作ってほしいとの意見が出された。図書館をもっと市民に開放して、多文化共生を進めてほしいとの意見も出された。花南地区を知る歴史文化ツアーを実施したり、獅子踊り等をボランティアで行ってほしいとの意見も出された。さらに空き家などを活用した日本語学習も良いのではないかとの意見も出された。ゴミ出しルール講座も実施してほしいとの意見も出された。

（２）　課題

大学での話し合いの場をつくるには、学内活動などで支障がないように折衝することが今後必要となることが課題となった。地元の企業の参加者がいないことも、寂しいしこの点もっと考えるべきだとの意見として出された。オープンキャンパスを大学で実施していることを知らなかった。地元での労働力不足が問題であり、特に防犯・防火の隊員が少ないのではないかとの意見も出された。

具体的なアンケートの作成上の意見として、わかりやすく、選択肢もあり、書き込みがあった方が良いのではないかとの意見が多く出された。外国人への設問を多くしてほしいとか、外国人が読めるような設問をつくってほしいとの意見も出された。

第４回目　「多文化共生の地域づくりのためのワークショップ」

第４回目のＷＳはアンケート結果を受けてのＷＳを実施した。

（１）　成果

多文化共生について、少し知っている人の割合が、全体の中では少ないことが明らかになった。多文化共生知識が少ないこととしてもっと考えるべきだとの意見出された。

多文化共生イメージをもっと地域活動で推進すべきであるとの意見が出された。高齢者にとり多文化共生は難しい問題があることも明らかにされた。多文化共生ということに躊躇している人も多いことが明らかになった。多文化を少し知っている人でも多文化のイメージが先行していることが明らかになった。多文化という言葉だけを知っていることも明らかになった。学校でもっと多文化について教えることが必要であるという意見も出された。

（２）　課題

多文化共生について学校や職場で知る機会を持ち、町内会活動などを活発化することが必要である。そのために市や県からの多文化共生社会の活動への働きかけが一層必要であることが明らかとなった。多文化を推進するためには、学校や職場で継続的にできる啓もう・啓発活動が不可欠であることも明らかになった。

アンケート結果から、イベント開催などで外国人とのかかわりが必要であることが明らかとなった。アンケートから、外国人との共生が現実のものとなっているのに、イメージだけが先行していることが明らかになった。地域外国人と共生するには、互いにリスペクトすることが必要であることが明らかとなった。共生のためには、ごみ箱に捨てる文化を育てていき広める必要があることも意見として出された。

まとめ

（１）　成果

ワークショップ（ＷＳ）は、参加者の主体的な討議や各種の参加・体験型学習の手法を組み合わせた、小集団による参加者同士の共同作業であると言われる。討論や話し合い、振り返りなどにより一連の学習活動が、研修や講習、指導者養成などで実施されることがＷＳの特色とされている。

岩手県内において、特に県南地域における外国人居住者の増加が見込まれ、現実のものとなっている。そのためには受け入れる地域内においては、自治的活動等で積極的かつより具体的な対策が県南地域で急がれる必要があることがＷＳで明らかとなったと思われる。

今回、富士大学において展開された多文化共生社会のための地域づくりワークショップは、外国人との共生が地域の中で現実的に展開されるための具体的な第一歩の布石となった。全国での多文化共生のための取り組みは各地域の実情で既に展開されている自治体も数多くあるが、外国人と共に生活している地域住民がまずは主体的に多文化を考えることから始めることがまず必要であることからすると、今回の富士大学での多文化共生社会の地域まちづくりＷＳとしての意義は大きい。異文化について学び共に年齢・男女を問わず仲間と共に具体的に話し合うことから始められることこそが重要である。

今回のＷＳの活動記録は、多文化共生社会実現の話し合いの先進的な対策事例ではないが、まずはこの問題に対して住民が何から始めるべきなのかの初動の活動の先進的な事例として注目されるべきでありその記録となっている。

富士大学キャンパスの在るこの花南地域において、その中心となるコミュニティ住民さらにはその地で学んでいる生徒や学生や留学生達が共にその地域の行政のファシリテーターの力を借りながら共に学びあうための学習の機会であった。この学びは、今後も継続的に実施されることで、この地域に暮らす住民すべてが多文化共生社会の地域づくりの主体者となり得る可能性を示した富士大学の地域貢献活動の一環であったと思われる。

（２）　課題

アンケート結果を見るまでもなく、地域住民は多かれ少なかれ外国人を意識しているか、意識しつつも生活していることが明らかとされた。ただ、その意識がイメージだけで完了し、具体的に日常生活の中で外交人の住民の姿を見ている者の姿だけでとらえているとか、僅かに外国人と暮らしていることを感じている住民でさえ、具体的な課題に目を向けることもなく、むしろ意識していない事実も存在していることが明らかとなっている。今回の富士大学での多文化共生のためのＷＳに集まった参加者は、その意味で今後期待される地域住民たちの一人一人であり、多文化共生社会を実現するための第一歩を刻む際のメンバーとなり得ること示していたと思われるし、またそのためのＷＳであった。問題は、次年度以降は今回多文化共生社会のための活動として具体的に列挙された活動を、どう花南住民地区のコミュニティの方々と富士大学の学生・留学生達が、今後はこの地域に暮らし働いている外国の方々を加えてどのような活動を展開するかに継続される課題として残されたといえる。

富士大学の異文化交流センターはこの課題に対し、県南広域振興局、花巻市国際交流協会、国際交流センターの方々と共に手を携え協働しながら解決していこうと新たな決意を固くしているところである。

Ⅱ　「地域における多文化共生アンケート」の概要と主な結果

１．目的

「地域における多文化共生アンケート」は、地域における多文化共生の取組ニーズを把握するために地域住民と学生（高校生、大学生）それぞれの多文化共生意識のあり様を調査することを目的として実施された。アンケート項目の作成は他市町村でも実施されている住民アンケートを参考にしつつ、ワークショップ参加者の意見も踏まえて作成した。アンケートの集計方法は単純集計にとどまり、課題への第一次接近というにとどまるが、調査対象者数 830 人、有効回答率 83.4%（692 人）の「数」はそれなりの意義を持つとはいえる。少なくとも岩手県内でこれほど大量のサンプルデータ数を持つ多文化共生アンケート調査は初めてである。地元の比較的高齢層の住民意識と高校生、大学の多文化共生意識の把握と対照が可能な点も本アンケートの特徴といえるであろう。

2．実施期間

「多文化共生アンケート」の実施期間は令和５年８月～９月であった。

調査対象別内訳は下記のとおりである。

花南コミュニティ会議：８月 17 日～９月 12 日
花巻農業高校：８月 22 日
富士大学：９月 12 日～９月 14 日
留学生：９月 12 日～９月 25 日

３．調査対象

アンケートの調査対象は花南地区住民及び高校生、富士大生（含む留学生）であり、総計 1074 人。

花南コミュニティ会議役員：	100 人（うち１名大学生）
花巻農業高校生（16 歳～18 歳）：	245 人
富士大学生（19 歳～22 歳）：	727 人（学部在籍数）
留学生：	29 人
総計：	1,101 人

４．調査方法

・花巻コミュニティ会議分は、事務局より役員にアンケート用紙を配付後、回収。
・花巻農業高校、富士大学、留学生はＦｏｒｍｓのＱＲコードにて入力する方式。

５.調査票

地域における「多文化共生」（※1）のためのアンケート
【アンケート調査にご協力をお願いします】

富士大学では留学生を中心に地域住民の方々や高校生も参加する「多文化共生のまちづくりのためのワークショップ」（※2）を開催しています、多文化共生に必要な能力やスキルの育成を図っていますが、このほど富士大学生と花南地区の住民の方々、ワークショップに参加している花巻農業高校の生徒さんを対象に多文化共生の意識と今後の取り組みニーズを把握するためのアンケート調査を実施することとしました。調査結果は本学のホームページなどにより公表する予定ですが、調査は無記名で集計結果は統計的に処理しますので個人が特定されることはありません。また、調査への協力は任意であり、協力しなかったことで回答者が不利益を被ることはありません。なお、アンケート調査への回答および用紙の提出をもって本研究への協力について同意したものとみなさせていただきます。

お忙しいところ、大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和５年８月

富士大学異文化交流センター

（※1）「多文化共生」とは、「国籍等の異なる人々が、互いの文化的差異を認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」（総務省）です。

（※2）ワークショップは、岩手県県南広域振興局と富士大学が連携して開催し、（公財）花巻国際交流協会、花巻市、花南地区コミュニティ会議より多大な支援を得て運営されています。

記入に当たってのご注意

・調査票には本人が無記名でお答えください。

・質問ごとに当てはまる解答の番号を選び、○で囲んでください。○をつける数は質問ごとに異なっていますので指示に従ってください。

・回答が選択肢の中にない場合は、「その他」を選び、（　）内にできるだけ具体的にその内容を記入してください。

・ご不明な点がございましたら、以下の連絡先までお問い合わせください。

富士大学総務・統括部総務課

TEL:0198-23-6221（代）　FAX:0198-23-5818　e-mail:syomu@fuji-u.ac.jp

Ａ　日本人向け

問１　あなたの年齢は？

①１０～２０代　②３０代　③４０代　④５０代　⑤６０代　⑥７０代以上

問２　あなたの職業は？

①高校生　②大学生　③会社員・公務員　④自営業　⑤団体職員　⑥無職　⑦その他

問３　多文化共生については？

①よく知っている

②少し知っている

③知らない

→①、②と答えた方は、どのような場所・機会で知りましたか？（３つまで選択可）

①学校や職場での活動　②テレビ・ラジオなどのメディア

③インターネットや SNS、④友人や知人などとの会話

⑤町内会での活動やイベント　⑥市や県の広報など

⑦その他（　　）

問４　多文化共生のイメージは（３つまで選択可）

①外国の文化・風習に触れる機会が増える

②習慣や文化の違いからトラブルが起こる

③地域で外国人との交流が増えて活性化につながる

④治安が悪化する

⑤地域の経済発展につながる

⑥外国人向けの施策やインフラの増加により社会的負担が増える

⑦これからの社会に欠かすことができないこと

⑧その他（　　）

問５　外国籍住民との共生の為に必要なことは何ですか？（3 つまで選択可）

①日本の文化や習慣を学んでほしい

②ゴミ出しのルールや騒音を出さないなど生活ルールを守ってほしい

③地域の祭りや行事に参加してほしい

④地域の防災訓練やボランティア活動に参加してほしい

⑤外国の言葉や文化を教えてほしい

⑥特にない

⑦その他（　　）

問６　あなた自身は外国籍住民との付きあいはありますか？（3 つまで選択可）

①近所づきあいをしている

②学校や職場で付きあいがある

③町内会・コミュニティでの付きあいがある

④サークルやボランティア活動で付きあいがある

⑤離れた場所に友人がいる。

⑥特にない

⑦その他（　　）

問７（問６で①～⑤、⑦と回答した方）　外国籍住民と付きあって良かったことは何ですか？（3 つまで選択可）

①外国の文化や言葉を学ぶことができた

②外国籍住民の友人ができた

③地域に活気が出た

④地域での活動や助け合いが増えた

⑤特にない

⑥その他（　　）

問８（問６で⑥と回答した方）　外国籍住民との付きあいがない理由は何ですか？

①近所や職場に外国籍住民がいない

②外国籍住民に接する機会がない

③どのように接すればいいのかわからない

④外国籍住民と特に関わりたいとは思わない

⑤その他（　　）

問９　外国籍住民との関係で困ったことやトラブルの経験が有りますか？
（３つまで選択可）

①ゴミの出し方などのルール

②住宅からの騒音や大声

③交通ルール

④町内会活動への参加が無い

⑤言葉の行き違いによる理解の行き違い

⑥習慣・考え方の違いによる理解の行き違い

⑦特にない

⑧その他（　　）

問 10　外国籍住民が暮らしやすくなるために必要な地域での取り組みは何だと思いますか？（３つまで選択可）

①地域の清掃活動や祭りなどに参加を促す
②緊急時の避難場所を分かりやすく知らせる
③急な発熱やけがなどの緊急時対応を分かりやすく知らせる
④ゴミ出しのルールや騒音などのルールを教える
⑤地域の伝統芸能や料理など文化・歴史を学ぶ機会を設ける
⑥スポーツなどで子供たちと遊ぶ機会を設ける
⑦日常会話程度の日本語教室を開く
⑧私たち自身が外国の言葉や文化をよく知ること
⑨その他（　　）

問 11　あなたは留学生との交流を図りたいと思っていますか？

①強く思う
②どちらかと言えば思う
③あまり思わない
④思わない
⑤その他（　　）

問 12（問 11 で、①、②と回答した方）　具体的にはどのような取り組みを期待していますか？（３つまで選択可）

①出身国の文化や伝統を学ぶ
②現代の流行やファッションを知る
③出身国の言葉を学ぶ
④スポーツやゲームを通じて共に遊ぶ
⑤環境問題や SDGs の取り組みなどをともに考える
⑥地域課題（農業、子育て、介護等）の解決を図る活動を行う
⑦その他（　　）

問 13（花南コミュニティ会議、花巻農業高校生のみ回答）　富士大学の施設や取組に期待することはありますか（３つまで選択可）

①公開講座など大学の授業を受講したい

②図書館施設（専門書、一般書、絵本、コミュニティルーム等）を利用したい

③オープンスペースを利用してコミュニティ活動をしたい

④スポーツ施設（屋内３００ｍトラック等）を利用した活動をしたい

⑤シニア大学など地域の自主的学習サークルを大学内で開催したい

⑥留学生や一般学生と気軽に話したい

⑦学生と連携して地域防災活動などをしたい

⑧学生食堂を利用したい

⑨その他（　　）

Ｂ　富士大学留学生、在住外国人向けアンケート

問１　あなたの年齢はどれですか？

①１０～２０代　②３０代　③４０代　④５０代　⑤６０代　⑥７０代以上

問２　あなたの職業は何ですか？

①大学生　②会社員　③派遣・契約社員　④パート・アルバイト

⑤研修生・技能実習生　⑥特定技能　⑦自営業　⑧無職　⑨その他

問３　あなたの国籍はどこですか？

①中国　②韓国（朝鮮を含む）　③ブラジル　④アメリカ　⑤ベトナム

⑥フィリピン　⑦その他（　　）

問4　日本にどのくらい住んでいますか

①６か月未満　②6か月～１２か月未満　③１年～３年未満　④３年～５年未満

⑤５年～10年未満　⑥10年以上

問5　多文化共生については知っていますか?

①よく知っている。

②少し知っている

③知らない

→（①、②と答えた方）　どのような場所・機会で知りましたか？（３つまで選択可）

①学校や職場での活動　②テレビ・ラジオなどのメディア

③インターネットや SNS　④友人・知人との会話　⑤町内会での活動やイベント

⑥市や県の広報など

⑦その他（　　）

問6　日本語を上手に話せなくて困ったことは何ですか？（３つまで選択可）

①近所づきあい　②電車やバスへの乗り方　③買い物　④市役所の窓口

⑤郵便局や銀行の窓口　⑥仕事の時　⑥授業の時　⑦学校の先生との会話

⑦病気になった時　⑧災害時の避難　⑨特にない

⑩その他（　　）

問7　日本人との共生の為に必要なことは何だと思いますか？（３つまで選択可）

①日本の文化や習慣を学ぶ

②ゴミ出しのルールや騒音を出さないなど生活ルールを守る

③地域の祭りや行事に参加する

④地域の防災訓練やボランティア活動に参加する

⑤日本語や文化を学ぶ

⑥特にない

⑦その他（　　）

問8　あなた自身は日本人との付きあいはありますか？（３つまで選択可）

①近所づきあいをしている

②学校や職場で付きあいがある

③町内会・コミュニティでの付きあいがある

④サークルやボランティア活動で付きあいがある

⑤離れた場所に友人がいる

⑥特にない

⑦その他（　　）

問9（問8 で①～⑤、⑦と答えた方）　日本人と付きあって良かったことは何ですか？（３つまで選択可）

①日本の文化や言葉を学ぶことができた

②日本人住民の友人ができた

③自分たちのコミュニティでの生活に活気が出た

④地域の活動や助け合いが増えた

⑤特にない

⑥その他（　　）

問10（問8 で⑥と答えた方）　付きあいがない理由は

①近所や職場に日本人住民がいない

②日本人住民に接する機会がない

③どのように接すればいいのかわからない。

④日本人住民と特に関わりたいとは思わない

⑤その他（　　）

問11　日本人との関係で困ったことやトラブルの経験が有りますか？（３つまで選択可）

①ゴミの出し方やルール

②住宅からの騒音や大声

③交通ルール

④町内会活動への参加が無い

⑤言葉の行き違いによる理解の行き違い

⑥習慣・考え方の違いによる理解の行き違い

⑦特にない

⑧その他（　　）

問12　あなたが地域に対して期待する取り組みは何ですか（３つまで選択可）

①地域の清掃活動や祭りなどに参加を促す

②緊急時の避難場所を分かりやすく知らせる

③急な発熱やけがなどの緊急時対応を分かりやすく知らせる

④ゴミ出しのルールや騒音などのルールを教える

⑤地域の伝統芸能や料理など文化・歴史を学ぶ機会を設ける

⑥スポーツなどで子供たちと遊ぶ機会を設ける

⑦日常会話程度の日本語教室を開く

⑧その他（　　）

問13　あなたは日本人住民や学生との交流を図りたいと思いますか？

①強く思う

②どちらかと言えば思う

③あまり思わない

④思わない

⑤その他（　　）

問14（問 13 で①、②と答えた方）　具体的にはどのような取り組みで交流したいと思っていますか？（3 つまで選択可）

①日本の文化や伝統を学ぶ
②現代の流行やファッションを知る
③日本語を学ぶ
④スポーツやゲームを通じて共に遊ぶ
⑤環境問題や SDGs の取り組みなどを共に考える
⑥地域課題（農業、子育て、介護等）の解決を図る活動を行う
⑦日本人と気軽に会話したい
⑧その他（　　）

６．回収状況

（単位：人）

	有効回答	非有効回答	計	その他
高校生	233	12	245	
大学生	371	104	475	
花南地区住民	83	15	98	白紙回答２枚
留学生	5	7	12	
計	692	138	830	
	※集計対象外 9 人（花巻農業高校 7、富士大学 1、留学生 1）			

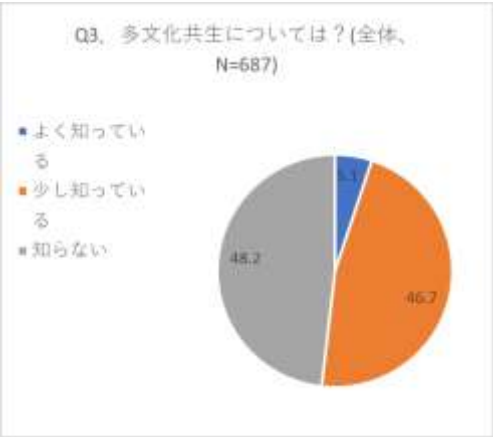
７．アンケート結果

「多文化共生アンケート」は、市内の高校生、富士大学生、花南地区住民 1,101 人を対象に実施し、830 人から回答を得た。うち有効回答数は 692、回収率は 62.9%であった。なお、留学生アンケートは回収率、サンプル数ともに小さいこと、日本人とは異なる属性をもつことから「参考」としている。

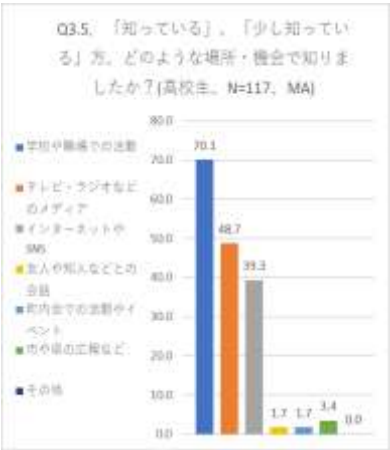
以下、留学生を除いた全体集計（有効回答数 687）を「全体」と表記し、地域における多文化共生意識の特徴を概観していく。ただし、有効回答の 88.1%は 10 代、20 代の若者であり、自ずと高校生、大学生の意識を反映したものとなっている（Ｑ１、Ｑ２）。適宜、「高校生」、「大学生」、「花南住民」別にグラフを掲示し、年代別特徴も見ていく。

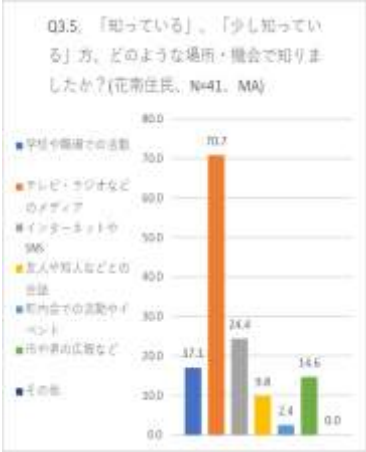
①「多文化共生」意識の程度と背景（Ｑ３、Q3.5）

「多文化共生」については、ほぼ半数（51.8%）が何らかの程度で「知っている」が、半数（48.2%）は「知らない」としている（Ｑ３）。「知っている」と回答したうちでは、「学校や職場での活動」（71.1%）が最も多く、「テレビ・ラジオ」、「インターネット」がともに 34.6%となっている。



「よく知っている」とする割合を年代別に見ると「花南住民」が最も高いが（8.4%）、媒体としては「テレビ・ラジオ」という間接的情報経由の比率が高い。対照的に、「大学生」、「高校生」では「学校や職場」という直接的な場を通じて多文化共生を知る比率が高くなっている。留学生が在籍している「大学生」は特に高い比率（82.8%）となっている。





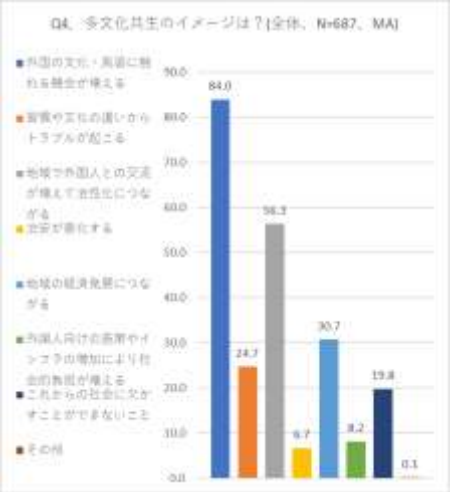
②多文化共生のイメージ（Ｑ４、Ｑ５）

多文化共生については、「外国の文化や風習に触れる」（84.0%）、「地域での外国人との交流が増える」（56.3%）等肯定的イメージの回答率が高い。一方、「習慣や文化の違いからトラブルが起こる」（24.7%）、「治安が悪化」（6.7%）」等、マイナスイメージも小さくない。しかし、「これからの社会に欠かすことができない」とする回答（19.8%）もマイナスイメージ回答率と同程度となっており、多文化共生を客観的かつ冷静に受容する意識が高いことを示している。

これに対応し、「外国籍住民と共生するために必要なこと（Ｑ５）」としては、「日本の文化や習慣を学ぶ」（73.7%）、「外国の言葉や文化を教えてほしい」（49.5%）など相互の文化的理解の促進に寄与すべき事柄が上位を占めている。同時に、「ゴミ出しのルールや騒音」（45.1%）、「地域の祭りや行事への参加」（33.3%）など外国人を地域コミュニティの一員として受け入れる以上守ってほしい具体的な日常的ルールの順守を求める回答率が高くなっている。

高齢者比率が高く、日常的な生活の場で外国人を受け入れることになる「花南住民」では、「高校生」、「大学生」を多く反映する「全体」に比して、Ｑ４では、「習慣や文化の違いから生ずるトラブル」（34.9%）、「治安悪化」（21.7%）への懸念が相対的に高い。特に「治安悪化」への懸念は「全体」の 3 倍以上となっている。Ｑ５でも、「ゴミ出しのルールや騒音を出さないなど生活ルールを守ってほしい」（63.9%）との回答比率が高く、多文化共生の推進に当たってはこうした年代間の意識の相違をいかに評価し、対

応していくかがポイントの一つであることが示されている。



③外国籍住民との付き合い（Ｑ６～Ｑ８）

外国籍住民との付き合い（Ｑ６）では、「特にない」とする回答が 71.3%であり、アンケート回答者全体の３分の２以上が外国籍住民との交流はないとしている。その理由（Ｑ８）は、「近所や職場に外国籍住民がいない」（41.4%）、「外国籍住民に接する機会がない」（38.4%）とする比率が高い。市内に居住する外国籍住民人口比率が１%に満たない現状を反映したものといえる。また、「花南住民」では、10.8%の人が「特に付き合いたいとは思わない」と回答しており、多文化共生に関する高齢者意識の一端が示されている。対称的に「高校生」の同比率は 3.3%にすぎず、機会さえあれば付き合いたいとする積極的意識が高いことがうかがえる。

一方、「外国籍住民と付き合って良かった点」としては（Ｑ７）、「特にない」とする割合が 58.4%で最も多いが、同じ程度（55.3%）で「外国の文化や言葉を学べた」とし、「外国籍住民の友人ができた」とする割合も３割を超え、実際に外国籍住民と付き合い

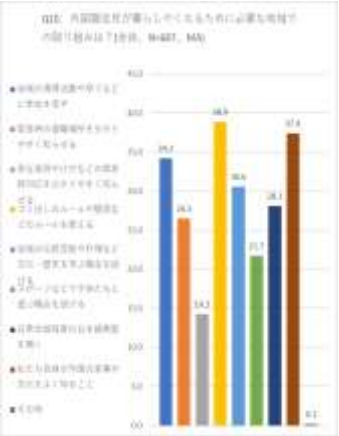
がある人々の間では多文化共生を肯定的に評価する意識が高いと言える。

なお、「大学生」では、「学校や職場で付き合いがある」とする比率が 25.1%で平均よりも高い比率となっているが、「特にない」とする割合も高い（65.2%）。Ｑ８の「特に関りたくない」とする比率も 7.0%となっている。外国籍住民（留学生）との日常的な付き合いには一定の配慮なり工夫なりが必要なことを示唆するものといえよう。

④外国籍住民との日常生活（Ｑ９、Q11）

外国籍住民とのトラブル（Ｑ９）に関しては、「全体」の 80.3%、「花南住民」でも 72.3%が「特にない」としている。その中では、「言葉の行き違いによる理解の行き違い」(9.9%)、「習慣や考え方の違いによる理解の行き違い」(9.0%) が高い比率となっている。「ゴミの出し方などのルール」(4.8%) に関しても言語や習慣の相違による行き違いの具体的事例として理解できると思われ、多文化共生のために、日本人、外国籍住民相互の異文化理解のための取り組みが必要なことが示唆されている。

この点、「外国籍住民が暮らしやすくなるために必要な地域での取り組み」（Q10）について、多くの人が「ゴミ出しのルールや騒音などのルールを教える」(38.9%)、「私たち自身が外国の言葉や文化を知る」(37.4%)、「地域の清掃活動や祭りなどに参加を促す」(34.2%) など、具体的で実際的な取り組みや主体的な学習の必要性に高い評価が与えられていることは極めて適切なことである。この点もまた、世代間でさほど大きな乖離はなく、地域に共

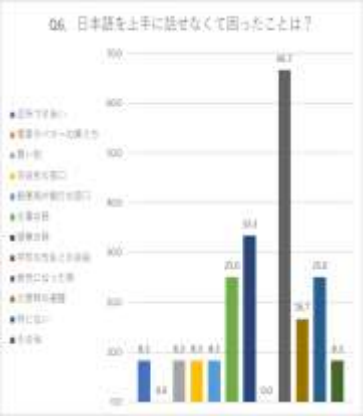


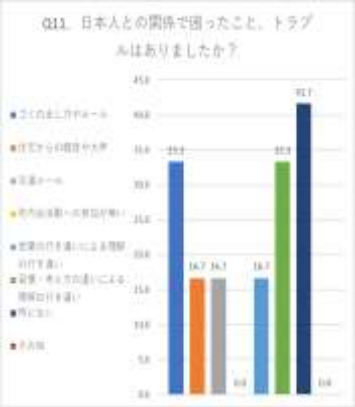
有されている意識だと言える。

なお、「参考」として資料に掲示されている「留学生アンケート」からいくつ特徴的な点をみてみると以下の通りである。

先ず留学生が「日本語を上手に話せなくて困ったこと」（Ｑ６）としては「病気になったとき」（66.7%）が最も高い。次いで、「日本人との関係で困ったこと」（Q11）は「ゴミの出し方やルール」(33.3%)、「習慣・考え方の相違な夜理解の行き違い」(33.3%)であり、日本人へのアンケートと同じ結果となっている。

「地域に対して期待すること」(Q12)は、「地域の清掃活動や祭りなどに参加」(33.3%)、「地域の伝統芸能や料理等文化・歴史を学ぶ」（33.3%）に次いで「急な発熱やけがなどの緊急時対応」(25.0%)、「日常会話程度の日本語教室」(25.0%）への期待があげられており、ここからは留学生は地域に対し発熱時などの緊急時対応と日常会話取得というより具体的で実際的事態への支援を求めていると言える。日本人アンケートからは抜け落ちていた視点であり、多文化共生にとって大切な視点が提示されているといえる。

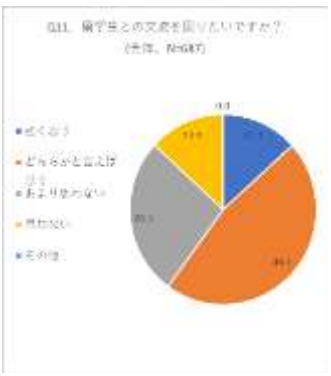


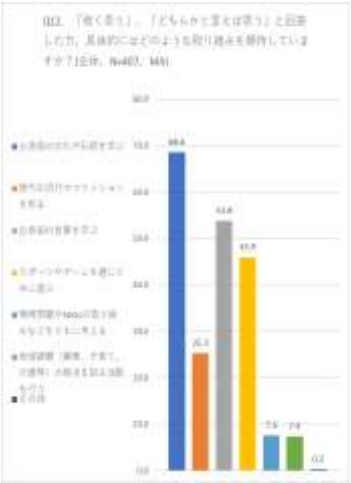


＜参考「留学生アンケート」（Ｎ＝12（非有効回答含む））＞

⑤留学生との交流（Q11、Q12）

Q11 によれば、全体の過半数は何らかの程度で「留学生との交流」を望んでいる(59.2%)。年代別では「大学生」が最も高く(67.1%)、「花南住民」は３分の 1 程度（37.3%）に過ぎない。「高校生」がその中間で「全体」傾向に近い（56.2%)。





具体的な交流としては「出身国の文化や伝統を学ぶ」(68.6%)、

「出身国の言葉を学ぶ」（51.8%）、「スポーツやゲームを通じて共に遊ぶ」（45.9%）となっている。

「高校生」、「大学生」では「現代の流行やファッションを知る」がそれぞれ 29.0%、26.1%と高く、対等の関係で交流しようとする意識が読み取れる。一方、「花南住民」では、「地域課題の解決を図る活動をする」（29.4%）、「環境問題や SDGs の取り組みなどをともに学ぶ」（19.4%）も高く、コミュニティの一員として社会的活動を共に行う存在としての留学生への期待が感じ取れる。

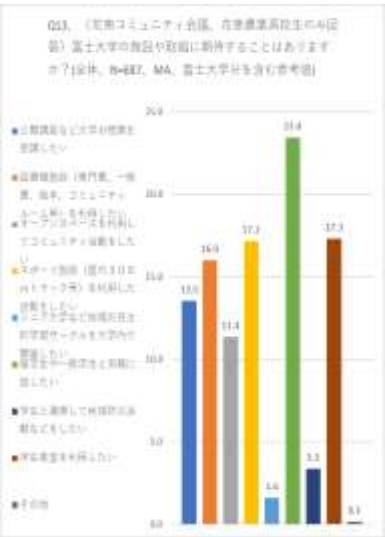
参考として「留学生アンケート」をみると、留学生の 4 分の 3（73.4%）は日本人との交流を望んでいるが（Q13）、内容的には「日本の文化や伝統を学ぶ」（66.7%）、「日本語を学ぶ」（41.7%）とともに「現代の流行やファッションを知る」（50.0%）、「スポーツやゲームを通じて共に遊ぶ」（25.0%）が高く、日本の「高校生」、「大学生」と感覚は同じであることが示されている。

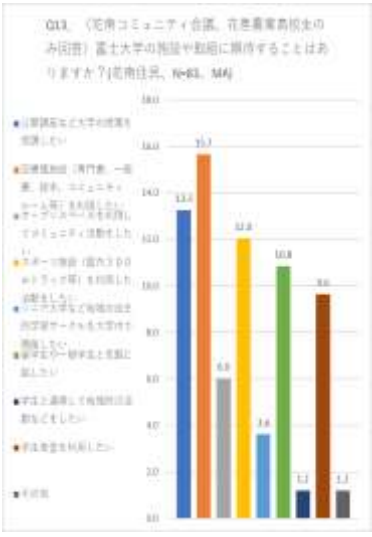
地域における多文化共生を推進する際には、こうした年代間意識の共通性と相違とを踏まえ、いかに相互理解を図り交流を実現していくかが重要な課題だといえる。

⑥交流拠点としての富士大学（Q13、参考）

「多文化共生アンケート」では地域の多文化共生拠点としての富士大学の役割について一般的な形で質問している。その結果、最も多くの期待が寄せられているのは「留学生や一般学生と気軽に話したい」（23.4%）であり、次いで「学生食堂の利用」（17.3%）、「スポーツ施設を利用した活動」（17.2%）であった。しかし、「高校生」では、「図書館施設の利用」が 28.3%と高く、「花南住民」では、「図書館」（15.7%）に次いで、「公開講座など大学の授業を受講したい」（13.3%）が高くなっている。

年代別の期待をよく理解した上で、知の拠点としての大学資源の有効活用を図ることが多文化共生拠点としての富士大学の役割発揮にとって大きなカギとなることが示唆されていると言える。





８．小括

「地域における多文化共生アンケート」の主な知見をまとめると以下のようである。

１）「多文化共生」については地域の高校生、大学生、花南地区住民全体のほぼ半数が何らかの程度において知っている。しかし、半数はまだ知らないのが現実である。また、高校生、大学生は「学校あるいは職場」という日常空間での体験を基にしていると言えるが、高齢者が多数を占める花南地区住民はテレビやインターネットという間接的情報に依存しているのが実態である。

２）多文化共生に関しては、「外国の文化や風習に触れる」、「地域での外国人との交流が増える」との肯定的イメージを持つ人の比率が高いが、「習慣や文化の違いからのトラブルが増える」。「治安悪化」というマイナスイメージを持つ人も少なくない。特に、高齢者ではその傾向が高いことが確認された。

３）外国人との付き合いを日常的に行っている人は全体の３割に満たない。その理由は学校や職場、あるいは近隣に外国籍住民がいないというシンプルなものであり、外国籍住民の増加と共にこの比率は上昇していくことは間違いない。しかし他方で、外国籍住民と特にかかわりたいとは思わない人も一定数存在し、高齢者では１割程度に達する。このような人々に配慮しつつ多文化共生の取り組みは進められる必要があると考えられる。

４）外国籍住民との間でトラブルを感じている人は全体の２割に満たない。しかし、高齢者では３割近くの人が何らかのトラブルを感じている。とはいえ、その多くは言葉の不自由さや日常生活の習慣や風習の違いに起因するものであり、互いの理解が進むことによって解消されるものと考えられる。それ故にこと、言語の学習と互いの生活習慣・文化の違いを理解する多文化共生の取り組みが進められる必要があると言える。留学生にとっても言葉の不自由さによって病気などの緊急時に多大の困難を感じている実態が示された。相互理解の前提として日常会話の習熟支援が重要だと言える。

５）アンケート対象者のほぼ半数が留学生との付き合いを望んでいる。その理由は出身国の文化や伝統を学ぶこと、相手国の言葉を学ぶことにあるが、高校生、大学生では相手国の流行やファッションへの関心が高く、また互いにゲームをして交流することを望んでいる。一方、高齢者では地域課題の解決や環境問題等社会的課題の解決に向けて互いに交流することを望んでいると言える。年代別の意識を違いに配慮しつつ、全ての年代にとって望ましい多文化共生の取り組みが求められていると言える。

この点、地域における多文化共生にとって富士大学の果たす役割は地域における知の拠点機能を発揮しつつ、留学生・一般学生と地域の高校生、高齢者との交流を促進していくことにあることもアンケートから示唆された。次年度以降、より具体的な取り組みを果たすことが求められている。これが本アンケートの最終的な結論である。

Ⅲ　次年度に向けた課題

本章では、令和５年度の活動を通して得られた次年度に向けた課題を述べ、まとめとする。まず、今年度における「多文化共生の地域づくりのためのワークショップ」の主な意義は、多様な価値観が混在することの意味を考えながら、岩手県花巻地区の「多文化」「共生」「地域づくり」に対する意識の現状を把握することであったと考えられる。本ワークショップは、地域社会における社会課題の解決や持続可能な社会の実現も視野に入れた活動としても位置づけられることから、今年度の活動は、地域住民が当事者として社会問題を解決したり、皆が地域づくりを行う主体であるということを自覚する契機になったのではないだろうか。

顕在・潜在の社会問題は、多方面に複雑な影響をもたらすものであり、短期間で解決することが難しいため、長期的な視点や将来の社会に対するビジョンを持つことが重要となる。解決に時間を要する問題に直面する際には、まず現状を把握し、何が問題なのか、なぜその問題が生じるまでに至ったかという背景から理解する必要があると考えられる。

今年度は若年層の日本人のワークショップ参加者が多かったため、「多文化共生」という観点から、次年度は、年齢層や国籍を拡大して、より多くの人々が話し合う場を提供するとともに、意識調査を行うことが望ましい。年齢や国籍等の違いから、物事に対する認識の差異が生じることもあるので、それらをどのように地域社会で共生させていくかということもテーマとする。

そして、「地域づくり」という観点からは、地域に拠点を置く企業や、他の自治体とも連携しながら、関係するコミュニティの範囲を拡大して活動することが望まれる。地域社会を形成する主体が、各々の役割を全うすることが、より良い地域づくりに繋がると考えられる。

その他、ワークショップの回数や時間等を検討し、スピーカーによるプレゼンテーションも開催する予定である。

以下に、参考として今年度のワークショップで得られた意見を掲載する。

【多文化共生に対する富士大学生の意識】

◆多文化共生が必要と思う人々は多いが、実際に外国人と接している人は少ないと感じる。その理由は、言語の壁が生じる可能性があるからである。

◆外国人に対するイメージが存在する中で、国籍に関係なく、個人を見て判断することができるようになれば、外国人同士の交流がさらに増えるだろう。人には良い面と悪い面の両面が必ずあるということを意識することが重要である。

◆周囲に外国人がいる人は積極的に関わろうとしているが、地域単位で見ると、多文化

共生への関心はそれほど高くないと感じる。
◆アンケートの結果を見ると「多文化共生」の意味を理解していない人が多数いると思う。私はカナダに友人がいて、その友人に日本のイメージを聞くと「クリーン」「親切」等ポジティブなイメージを持っている。外国籍の人々と交流したいと思うのならば、お互いに歩み寄ることで「多文化共生」がうまく進んでいくと思う。
◆どの国に住んでいるとしても、自分が住んでいる地域のルールや知識を知っておくことが重要だと思う。言語や文化、伝統を教え合い、交流できるイベントや場所等、機会さえあれば、多文化共生を広めることができるし、地域活性化にもつながっていくと思う。
◆10～20 代では、多文化共生の場面に直接的に関わっている人が少ないが、多文化共生について前向きな考えを持っている人が多いように感じる。また、一方的に日本の文化や習慣を知ってほしいというよりは、お互いに学び合いたいと思っている人が多いのではないかという印象である。多文化共生について詳しくはわからないが、「共生」であるからには、お互いに対等な関係を構築できたらよいと思う。

＜資料集＞

１．ワークショップの記録

－多文化共生ＷＳの各回の班話し合いのまとめ全記録－

令和５年度富士大学において「多文化共生のまちづくりワークショップ」が開催され、回を重ねるごとに活発な議論が熱を帯びて実施された。富士大学の学生及び留学生、市内高校生、花南コミュニティ地区の市民、さらに花巻市国際交流協会のメンバー、国際交流室の方々をお迎えし実施されたワークショップも、各回毎に参加人数も増え、最終的に大変活発な話し合いが行われ、次年度以降の「多文化共生のまちづくり」のための具体的な方向性が多数示された。この資料集は、各回で話しあわれてポストイットに記入された内容を記録としてまとめたものである。

第１回　多文化共生社会の現状と課題ＷＳのまとめ

「多文化とは」

①ポイント：服、ファッション、食。

②生活スタイルが異なる。身近なところから世界の文化を学んでいく。

③期待すること：文化を尊重すること。自分たちの生活、食べ物が入りやすいところから。他国のことを知れる。言語能力。

④各国の文化を包容し、相互に尊重し、経済力向上のために一緒に共存、発展している。

⑤国の特徴のある祭りあるいは文化祭の開催等。

⑥多言語、生活スタイル、ファッション、歌、互いの尊重。

⑦ポイント：技術、広い視点が必要。

⑧言語で互いに歩み寄る。

⑨ポイント：日本の居酒屋で韓国の料理を売ること。日本のお店で韓国の歌が流れてくること。服のスタイルを足して、新しいスタイルを誕生させる。（具体的な記述）

⑩その他の意見：食文化の違い、留学生と一緒に授業して学べられない。言葉が通じない。アルバイトに外国人が多くいる。日本語のわかる外国人が少ない。電車のアナウンス。日本語がわからない。外国人たちにもっと優しい態度を！

第１回は、多文化共生とは何かについて多くの話し合いをした。

第２回　花南地区における多文化共生の推進のまとめ

「推進のために」

①趣味：モノづくり、写真撮影、交流を重ねる。

②学ぶ：勉強、自国語の勉強。

③歌：歌を一緒に歌う。カラオケをする。

④料理：料理交流会、料理を作る。郷土料理。食事会。餅つき。ミックス料理を作る。それぞれの国の料理を作る。

※料理交流：コミュニティ、富士大学生、中高生など、それぞれの国の料理を一緒に作る。チラシを配る（コミュニティ、中高生）。宗教への対応（豚肉、アルコール禁止）。シニア大学と富士大学とのコラボはどうか→有名企業のＯＢや県職のＯＢ等の人脈を使い情報を収集する。情報発信をＳＮＳでする。

⑤スポーツ：ニュースポーツ。運動会、玉入れ、綱引きなど家族もできるもの。

⑥ゲーム：ゲーム、けん玉、スマホゲーム。年齢によって好きなゲームを考案する。

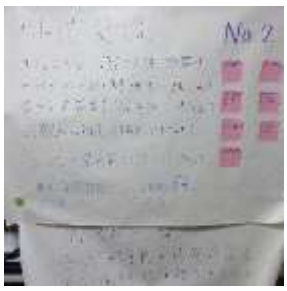
⑦踊り：民謡の踊り、盆踊り。

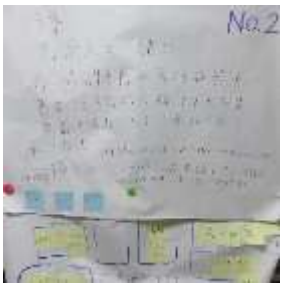
⑧行事：外国人と一緒に各国の特色ある民族衣装を着て伝統的な踊りをしたり、楽器を演奏したりして参加する。課題：特別民族衣装がないと参加できないか、心配する。細部をどれくらい用意できるのかによって参加人数が異なる。楽器の演奏について触らせるだけなのか。曲を演奏するだけなのか。使える楽器が限られるのが予想される。演奏できる人を集めることができるのか。各国の衣装をどうやって集めるのか？

案内方法：外国人に知らせるシステムを作る。ＬＩＮＥ、Facebook 等で。

⑨掲示板：優しい日本語でチラシを作る。場所、時間、方法、地図をわかりやすく書く。

第２回は、花南地区での多文化共生のために、具体的な内容を検討した。





第３回　多文化共生のまちづくりワークショップ　まとめ

「アンケート作成のために」

①富士大学との連携

花巻市の大学としての活動

富士大学とシニアの接点が少ない→交渉する場を作ろう。富士大学との提携を。

地元産業の参加がない→コミュニケーションがない。

高校生側が大学主催のイベントに参加する。

留学生と地元の交流する場を作る。

学園祭で留学生の国料理のイベントのブースを作る。

大学でオープンキャンパスをしていることを地元の人が知らない。

学生と高校生の交流試合や合同練習の機会を作る。

図書館の地域市民の活用を促す。

②地域資源活用（花南地域）

花南地域の歴史・文化を知るツアーのようなものを実施する。

地域・地元の伝統を伝えていない。→どこに何があるのか絵でわかるマップを掲示する。

例えば、花巻の獅子踊りのようなものを富士大イベントとして実施する。

ボランティア活動の場の設定をする。

③地域の問題

労働力不足、消防団や防犯隊の人員不足を大学生で補う。

空き家を活用した日本語学習。

ゴミ出しルールを地域の人と一緒に説明を聞く（講座）。

成田の外国人が１人。まったくコミュニケーションがない。

→外交人が生活していくにはどうすべきか。

空き家などを改築し、学童などの施設にする。

地域の現実的課題の中で特に重視すべき事項は何か？

④全体の改善点　アンケートへの反映。

多文化共生→外国人と一緒に暮らす。

多文化共生→わかりづらい。わからない人には難しいアンケートは？外国人の人から見ても、日本での壁やハードルがあるように感じる。

〇言葉：外国人の方は英語が話せると思いますか。

〇言葉：多文化共生→定義が必要ではないか。ひらがなで書く。認知度が低い言葉。外国人との協同。外国人が一緒の生活…などにする。外国人と交わって暮らす文化。

〇アンケート：わかりやすく短く。選択もいいですが、書き込める項目も必要。実際にいろいろな外国人に対して、設問や質問が不足していると思う。問いに自由に書けるようにする。外国人の人にも読めるように。外国人も一緒に参加できるアンケートも必要。

○英語→すべての人に英語が通じると思いますか？
○外国人目標のアンケートも必要。
○共生→一緒に生活すること。
　第３回は、アンケート実施のための話し合いをなった。具体的には①～④までの項目を話し合った。

第４回　多文化共生社会のまちづくりＷＳ～多文化共生のアンケート結果を受けて～
「アンケート結果の評価」
①多文化共生認識の現状：
多文化共生について少し知っている人が、知っている人全体の中でほとんど少ない。平均してもわかる程度を占めているので、多文化共生の知識は少ないくらいで、知識面にもっと広めることが足りないのではないかと思う。
多文化共生のイメージ：重点的に特に地域活動に積極的に推すべきだと思う。
年齢が上がるに対応することが難しい事情が見えて来ている傾向がある。ネガティブバイアスがあると思う。
多文化共生を禁止している人が多いと思う。少し知っている人でも、イメージが占める部分が多いと思う。
言葉だけを知っている人がいるのかなと思う。
少し知っている人が知らない人より多い。さらに広めるべきだと思う。学校で広めることが有効。
イメージでとらえている人が多いなら、より詳しい認識が求められる。文化という認識幅が広い。
多文化共生について知っているかについてはある程度知っている人が多い。言葉の意味を知っているのではなく、言葉を聞いたとかある程度の人が多いと感じた。
アンケート結果Ｑ３の知っている人が予想より多い。Q3.5　市町村などのイベントや工法などもっとやるべき。
大体半々に分かれる。自治体の取り組みでの認知が少ない。全体的には半分の人が多文化共生について知っている。学校や職場では知る機会が多いようだが、町内会や市や県からの知る機会が少ない。知っている人が半数いる。学校、職場で活動が活発だと感じた。多文化共生というのは言葉だけなのか。社会変化と日本の現状に照らして捉えられているが、よくわからない。
②年代別意識について：年代別意識改善の方向　いつ、どこで知ったか？学校や職場での啓もう啓発。
アンケート結果、イベントで外国人とのかかわりを持つ。ＳＮＳなどで交流の機会を作る。互いの考え方を理解するために交流の場を作る。外国人との共生がこれだけ現実的

になっているのにイメージでしか捕らえられないと、お互いにリスペクトしながら交流を深めることが求められる。ごみをしっかりゴミ箱に捨てる文化を学んでもらうことも兼ねてごみ拾いボランティア等に一緒に参加していく。ホームスティなどを増やす。地域の人と外国人トン交流の場を作ってイメージだけが先行させない。Q10 アンケート通り具体的取組に足を踏み出すことが実践的に求められる。

③留学生の意識ギャップについて：地域の取り組み　ゴミ出し、外国語　地域からのアプローチ。留学生：勉強、保険について理解していない学生が多い（菅原さん）。本人が緊急時の対応について知っているか。

アンケート結果：日本の文化で交流するだけではなく、相手の国の文化を学び、交流できる機会を地域で作る。そもそも交流する場がない。何が困っているかを理解していくように心がけで行くことが必要。

④クロス集計から：付き合いがない文化ＶＳ付き合いがある文化を知ることで、活性化につながる。

アンケート結果の評価から：事実をしっかりと受け止める。メリット、デメリットを表示できる場にしていく。「共生」が必要となっているが、日本人は外国人に合わせてもらう考えで、若干の譲歩はあるが、合わせてもらうスタイルのため、そこの改善が必要。互いに文化や考えに不満がある外国人や地域が互いに話し合い、意見を伝えあう場を市や県が作り出す。

イメージとのギャップが大きくならないように、地域の人が思っていること、外国人が思っていることを言える場を作っていく。これからますます世界が一つになって様々な課題を解決するようにしていくべき。敵を作るのではなくリスペクトの精神で接することが軍事力より大切だとも思う。

⑤富士大学に望まれる交流拠点としての取り組み：ネガティブな意見が多い。実情が見えていないからネガティブな意見が多い。留学生の方はトラブルが明確である。日本人は関しないので、知っている人が多い。多文化共生　学生の保険。緊急保険について。

第４回はアンケート結果を踏まえて富士大学として何ができるのかの話し合いとなった。

第５回　多文化共生のまちづくりＷＳの活動発表

「多文化共生のまちづくりＷＳ第１回から第４回までの活動成果発表」

第１回から第４回までの話し合いの成果を第５回の「紫陵祭」で外部発表した。この中では、本学経済学科３年生昆野佳祐君、経営法学科２年生竹荒伸洋君がそれぞれ「多文化共生のまちづくり向けた視点」、「主な特徴点の分析と評価として」プレゼン発表をした（後掲）。

以上が、各回それぞれの記録である。次年度以降、これら多数の意見を踏まえた具体的な方策が富士大学としての「多文化共生のためのまちづくり」ワークショップにおいて実現されることを願っている。

多文化共生のまちづくりに向けた視点

2021年12月 [illegible]

---

i. 多文化共生の現状

ii. 多文化共生の課題

iii. 多文化共生を広めていくためには

iv. これからの多文化共生について

v. まとめ

1　多文化共生の現状

i. 約５０％の人が多文化共生について知っている

ii. 多文化共生というが具体的に知っている若い人が少ない

iii. 学校・職場・地域活動でもっと知ってもらう必要がある

2　多文化共生の課題

i. コミュニケーションに言語の壁がある

ii. 生活のルールやマナーの理解不足、知識不足によるトラブル

iii. 宗教等に対する理解不足

iv. 外国人との交流がそもそも無い

3－1　多文化共生を広めていくためには

i. 広報誌やSNSを活用する

ii. 高校・大学・地域等が連携をし公開講座等で、相互理解を深めていく必要がある

iii. 留学生や地域に住んでいる外国人との交流するためのイベントを行う

3－2　具体的なイベント内容

i. トークセッションを高校・大学・留学生・地域の人で行う

ii. 簡単に取り組めるレクやボランティア活動を一緒に行う

iii. お互いを理解するために郷土料理を出し合ったりするイベントを行う

4　これからの多文化共生について

i. お互いがリスペクトをしながら相手の文化を知る機会を作る

ii. お互いの宗教・人権を尊重し、お互いの宗教的な習慣を継続できる環境を作る

iii. スーパーやコンビニに、世界各国の食材やお菓子を並べたり、イベントを積極的に行い多文化交流を行う

5　まとめ

i. 多文化共生社会の浸透に伴い相互の文化への理解が必要である

ii. 多文化共生の浸透を理解してもらうためにSNSや広報誌を活用し地域での多文化交流イベントを行う

iii. 異なる文化や宗教等の理解を深めるための具体的な実践・行動が必要である

iv. 対等な関係を作り上げていくことが大切である

第5回多文化共生のためのワークショップ

主な特徴点の分析と評価

～多文化共生アンケートの結果から～

2023年10月14日

1. アンケート結果からの分析

2. 分析に基づく評価

3. まとめ

1　結果からの分析

- Q1, Q2→・10～20代の割合が大きい
- Q3→イメージ・言葉のみで捉えている人が多い
- Q3.5 花南住民のラジオ・テレビなどのメディアが高い

  →比較的年齢層が高いためである
- Q5→生活マナーを守ってほしいと感じている花南住民が多い

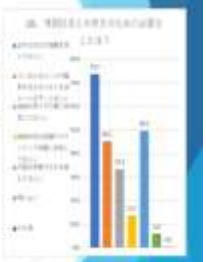
- Q6　大学生が高い

  →富士大学生が中心に答えており、富士大学は留学生が多いからである
- Q8、Q9→学校や職場での交流があまりない、近所にいることがないので交流が出来ない
- Q10→自国の文化への共生意識が比較的強い
- Q11→留学生と関わりを持ちたいという人が半分近くを占めている
- 全体→高校生、大学生、花南住民の数値にそれほどの差はない

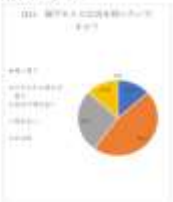
2　分析に基づく評価

- 地域の教育機関を中心にデータを取ったので、年代に偏りがあり、多文化共生に関する知識の差がQ3の結果に反映されていると考えた。

- Q5の生活ルールを守ってほしいという花巻住民が多いことから、外国籍の方に日本の生活ルールが定着していないと考えられる。



- 外国人と関わりたいという花巻住民が多いことに対して、実際に外国人と交流を図る機会がない。



3　まとめ

- 外国籍住民の方に生活マナーを定着させるために、まず日本人が生活マナーを徹底する必要があると考える。
- 他国の文化を取り入れたイベント・ボランティア等を地域が実施して、交流を図る機会を作る。
- 年代によって、多文化に関する知識の情報源が違うので、日本人の中でも多文化共生の考え方に違いが生じている。
- 多文化共生を実現する上で、日本人の文化に馴染んでもらうことも大切だが、他国の文化も快く受け入れる気持ちも大切だと考えた。

２．アンケート集計結果

１）全体集計

3.5							Q4							
（Q3で①、②と答えた方）どのような場所・機会で知りましたか？（３つまで選択可）							多文化共生のイメージは（３つまで選択可）							
①学校や職場での活動	②テレビ・ラジオなどのメディア	③インターネットやSNS	④友人や知人などとの会話	⑤町内会での活動やイベント	⑥市や県の広報など	⑦その他	①外国の文化・風習に触れる機会が増える	②習慣や文化の違いからトラブルが起こる	③地域で外国人との交流が増えて活性化につながる	④治安が悪化する	⑤地域の経済発展につながる	⑥外国人向けの施策やインフラの増加により社会的負担が増える	⑦これからの社会に欠かすことができないこと	⑧その他
82	57	46	2	2	4	0	199	41	136	9	69	22	49	0
164	37	67	8	8	6	0	322	100	211	19	126	26	61	0
7	29	10	4	1	6	0	56	29	40	18	16	8	26	1
253	123	123	14	11	16	0	577	170	387	46	211	56	136	1
71.1	34.6	34.6	3.9	3.1	4.5	0.0	84.0	24.7	56.3	6.7	30.7	8.2	19.8	0.1
70.1	48.7	39.3	1.7	1.7	3.4	0.0	85.4	17.6	58.4	3.9	29.6	9.4	21.0	0.0
82.8	18.7	33.8	4.0	4.0	3.0	0.0	86.8	27.0	56.9	5.1	34.0	7.0	16.4	0.0
17.1	70.7	24.4	9.8	2.4	14.6	0.0	67.5	34.9	48.2	21.7	19.3	9.6	31.3	1.2

3.5							Q4							
（Q3で①、②と答えた方）どのような場所・機会で知りましたか？（３つまで選択可）							多文化共生のイメージは（３つまで選択可）							
①学校や職場での活動	②テレビ・ラジオなどのメディア	③インターネットやSNS	④友人や知人などとの会話	⑤町内会での活動やイベント	⑥市や県の広報など	⑦その他	①外国の文化・風習に触れる機会が増える	②習慣や文化の違いからトラブルが起こる	③地域で外国人との交流が増えて活性化につながる	④治安が悪化する	⑤地域の経済発展につながる	⑥外国人向けの施策やインフラの増加により社会的負担が増える	⑦これからの社会に欠かすことができないこと	⑧その他
82	57	46	2	2	4	0	199	41	136	9	69	22	49	0
164	37	67	8	8	6	0	322	100	211	19	126	26	61	0
7	29	10	4	1	6	0	56	29	40	18	16	8	26	1
253	123	123	14	11	16	0	577	170	387	46	211	56	136	1
71.1	34.6	34.6	3.9	3.1	4.5	0.0	84.0	24.7	56.3	6.7	30.7	8.2	19.8	0.1
70.1	48.7	39.3	1.7	1.7	3.4	0.0	85.4	17.6	58.4	3.9	29.6	9.4	21.0	0.0
82.8	18.7	33.8	4.0	4.0	3.0	0.0	86.8	27.0	56.9	5.1	34.0	7.0	16.4	0.0
17.1	70.7	24.4	9.8	2.4	14.6	0.0	67.5	34.9	48.2	21.7	19.3	9.6	31.3	1.2

Q5							Q6						
外国籍住民との共生の為に必要なことは何ですか？（3つまで選択可）							あなた自身は外国籍住民との付きあいはありますか？（3つまで選択可）						
①日本の文化や習慣を学んでほしい	②ゴミ出しのルールや騒音を出さないなど生活ルールを守ってほし	③地域の祭りや行事に参加してほしい	④地域の防災訓練やボランティア活動に参加してほしい	⑤外国の言葉や文化を教えてほしい	⑥特にない	⑦その他	①近所づきあいをしている	②学校や職場で付きあいがある	③町内会・コミュニティでの付きあいがある	④サークルやボランティア活動で付きあいがある	⑤離れた場所に友人がいる	⑥特にない	⑦その他
155	108	84	42	116	14	0	16	25	3	1	15	183	0
284	149	122	33	192	24	0	16	93	3	15	32	242	1
67	53	23	19	32	2	1	1	10	3	1	5	65	1
506	310	229	94	340	40	1	33	128	9	17	52	490	2
73.7	45.1	33.3	13.7	49.5	5.8	0.1	4.8	18.6	1.3	2.5	7.6	71.3	0.3
66.5	46.4	36.1	18.0	49.8	6.0	0.0	6.9	10.7	1.3	0.4	6.4	78.5	0.0
76.5	40.2	32.9	8.9	51.8	6.5	0.0	4.3	25.1	0.8	4.0	8.6	65.2	0.3
80.7	63.9	27.7	22.9	38.6	2.4	1.2	1.2	12.0	3.6	1.2	6.0	78.3	1.2

Q7						Q8				
（Q6で⑥以外に回答した方）外国籍住民と付きあって良かったことは何ですか？（3つまで選択可）						（Q6で⑥と回答した方）外国籍住民との付きあいがない理由は何ですか？				
①外国の文化や言葉を学ぶことができた	②外国籍住民の友人ができた	③地域に活気が出た	④地域での活動や助け合いが増えた	⑤特にない	⑥その他	①近所や職場に外国籍住民がいない	②外国籍住民に接する機会がない	③どのように接すればいいのかわからない	④外国籍住民と特に関わりたいとは思わない	⑤その他
31	16	1	4	38	0	74	79	11	6	0
71	43	12	9	69	0	95	92	13	17	0
7	5	2	0	8	1	34	17	2	7	0
109	64	15	13	115	1	203	188	26	30	0
55.3	32.5	7.6	6.6	58.4	0.5	41.4	38.4	5.3	6.1	0.0
62.0	32.0	2.0	8.0	76.0	0.0	40.4	43.2	6.0	3.3	0.0
55.0	33.3	9.3	7.0	53.5	0.0	39.3	38.0	5.4	7.0	0.0
38.9	27.8	11.1	0.0	44.4	5.6	52.3	26.2	3.1	10.8	0.0

Q9									Q10								
外国籍住民との関係で困ったことやトラブルの経験が有りますか？（3つまで選択可）									外国籍住民が暮らしやすくなるために必要な地域での取り組みは何だと思いますか？（3つまで選択可）								
①ゴミの出し方などのルール	②住宅からの騒音や大声	③交通ルール	④町内会活動への参加が薄い	⑤言葉の行き違いによる理解の行き違い	⑥習慣・考え方の違いによる理解の行き違い	⑦特にない	⑧その他		①地域の清掃活動や祭りなどに参加を促す	②緊急時の避難場所を分かりやすく知らせる	③急な発熱やけがなどの緊急時対応を分かりやすく知らせる	④ゴミ出しのルールや騒音などのルールを教える	⑤地域の伝統芸能や料理など文化・歴史を学ぶ機会を設ける	⑥スポーツなどで子供たちと遊ぶ機会を設ける	⑦日常会話程度の日本語教室を開く	⑧私たち自身が外国の言葉や文化をよく知ること	⑨その他
11	11	7	0	20	17	194	0		82	73	31	95	84	44	71	101	0
16	17	12	3	41	36	298	0		125	84	54	130	106	88	100	125	0
6	3	1	2	7	9	60	0		28	25	13	42	20	17	22	31	1
33	31	20	5	68	62	552	0		235	182	98	267	210	149	193	257	1
4.8	4.5	2.9	0.7	9.9	9.0	80.3	0.0		34.2	26.5	14.3	38.9	30.6	21.7	28.1	37.4	0.1
4.7	4.7	3.0	0.0	8.6	7.3	83.3	0.0		35.2	31.3	13.3	40.8	36.1	18.9	30.5	43.3	0.0
4.3	4.6	3.2	0.8	11.1	9.7	80.3	0.0		33.7	22.6	14.6	35.0	28.6	23.7	27.0	33.7	0.0
7.2	3.6	1.2	2.4	8.4	10.8	72.3	0.0		33.7	30.1	15.7	50.6	24.1	20.5	26.5	37.3	1.2

Q11					Q12						
あなたは留学生との交流を図りたいと思っていますか？					（「Q11で①、②と回答した方）具体的にはどのような取り組みを期待していますか？（３つまで選択可）						
①強く思う	②どちらかと言えば思う	③あまり思わない	④思わない	⑤その他	①出身国の文化や伝統を学ぶ	②現代の流行やファッションを知る	③出身国の言葉を学ぶ	④スポーツやゲームを通じて共に遊ぶ	⑤環境問題やSDGsの取り組みなどをともに考える	⑥地域課題（農業、子育て、介護等）の解決を図る活動を行う	⑦その他
29	102	76	25	0	90	38	77	66	9	9	0
60	185	78	44	0	162	64	130	111	16	12	0
1	30	28	20	0	27	1	12	10	6	9	1
90	317	182	89	0	279	103	219	187	31	30	1
13.1	46.1	26.5	13.0	0.0	68.6	25.3	53.8	45.9	7.6	7.4	0.2
12.4	43.8	32.6	10.7	0.0	68.7	29.0	58.8	50.4	6.9	6.9	0.0
16.2	49.9	21.0	11.9	0.0	66.1	26.1	53.1	45.3	6.5	4.9	0.0
1.2	36.1	33.7	24.1	0.0	87.1	3.2	38.7	32.3	19.4	29.0	3.2

Q13										
（花南コミュニティ会議、花巻農業高校生のみ回答） 富士大学の施設や取組に期待することはありますか（３つまで選択可）										
①公開講座など大学の授業を受講したい	②図書館施設（専門書、一般書、絵本、コミュニティルーム等）を利用したい	③オープンスペースを利用してコミュニティ活動をしたい	④スポーツ施設（屋内３００ｍトラック等）を利用した活動をしたい	⑤シニア大学など地域の自主的学習サークルを大学内で開催したい	⑥留学生や一般学生と気軽に話したい	⑦学生と連携して地域防災活動などをしたい	⑧学生食堂を利用したい	⑨その他		
21	66	31	44	2	73	9	73	0		
61	31	42	64	6	79	13	38	0	富士大生分は参考	
11	13	5	10	3	9	1	8	1		
93	110	78	118	11	161	23	119	1		
13.5	16.0	11.4	17.2	1.6	23.4	3.3	17.3	0.1		
9.0	28.3	13.3	18.9	0.9	31.3	3.9	31.3	0.0		
16.4	8.4	11.3	17.3	1.6	21.3	3.5	10.2	0.0	富士大生分は参考	
13.3	15.7	6.0	12.0	3.6	10.8	1.2	9.6	1.2		

「自由記述」（カッコ内は回答者の地区名）

Q4.「多文化共生のイメージ」

・習慣、文化、言葉の違う方々と、同じ地域で暮らすというイメージ。
外国人にフォーカスしたものではないと思っています。（南城親睦会）

・日本語を学んでほしい。（成田）

Q5.「外国籍住民との共生のために必要なこと」

・子供が英会話教室に通った。（成田）

Q6.「あなた自身は外国籍住民との付きあいはあるか」

・娘が小学生の頃、近所に中国から来た親子と付き合いがあった。外孫が
アメリカへホームステイへ行ったり受け入れて連れてきたことがある。（桜町１）

Q7.「外国籍住民と付きあって良かったことは何か」

・言葉には壁があるが、食生活ではなるほどと思ったことがあった。
中国では水ギョーザ、アメリカの女の子の場合ホヤを初めて食べたこと。（桜町１）

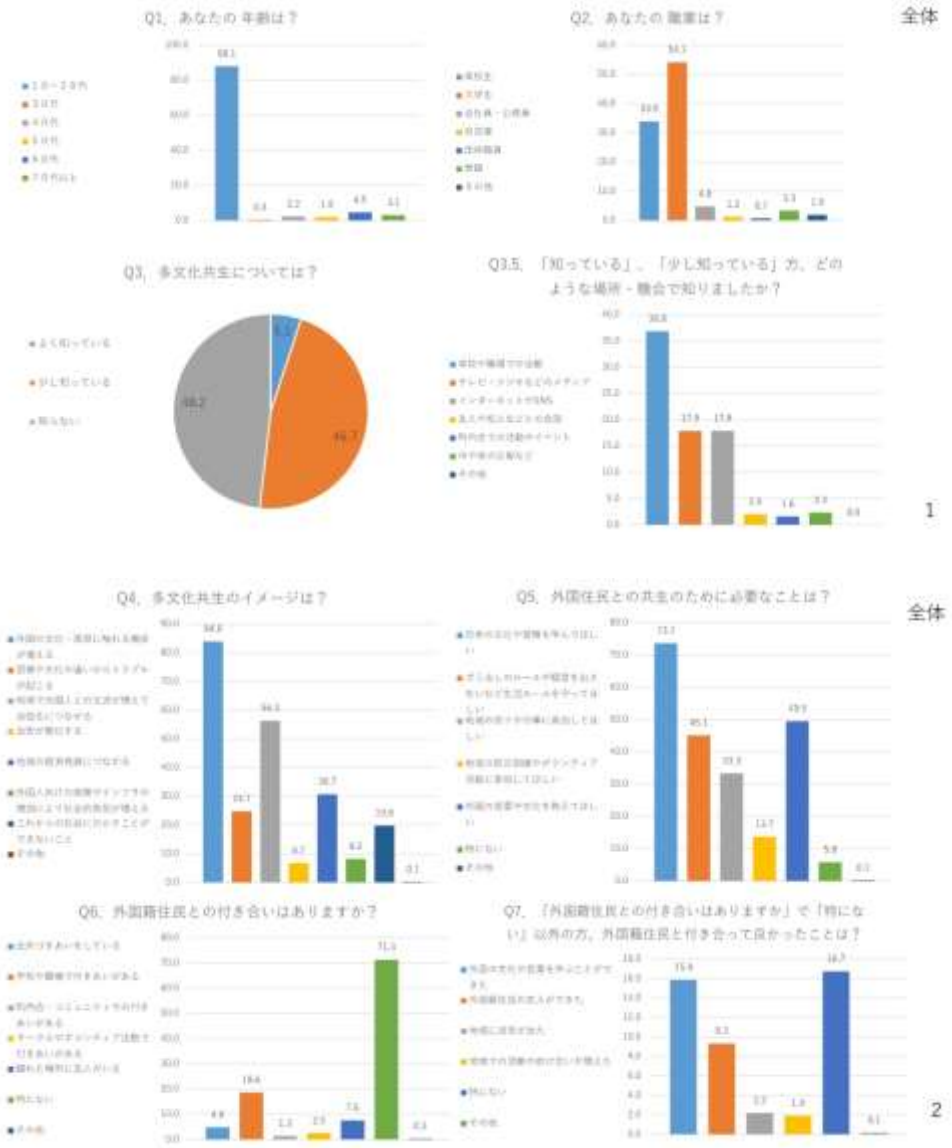
Q12.「具体的にはどのような取り組みを期待していますか」

・シニアなので活動についていけないのではないか？（諏訪協和会）

Q13.「富士大学の施設や取組に期待すること」

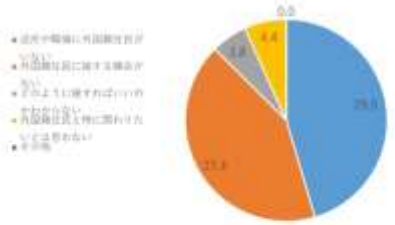
・特にない（桜町１）

２）集計グラフ（「全体」、「高校生」、「大学生」、「花南住民」、「留学生」（参考））

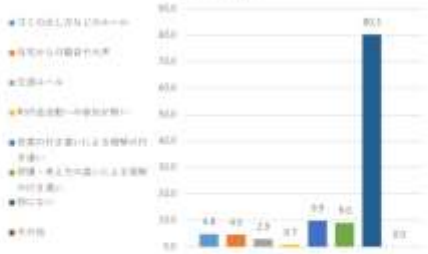


全体

Q8. 「外国籍住民との付き合いはありますか」で「特にない」方，付き合いがない理由は？



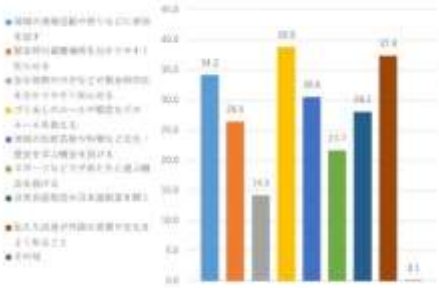
Q9. 外国籍住民との関係で困ったこと，トラブルはありましたか？



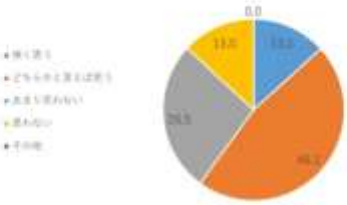
3

全体

Q10. 外国籍住民が暮らしやくなるために必要な地域での取り組みは？



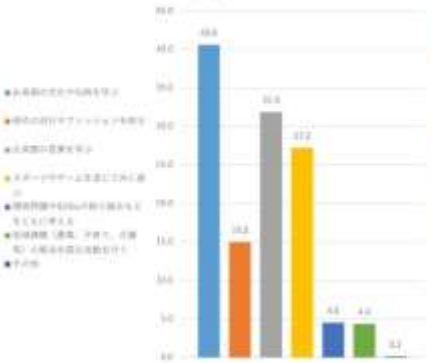
Q11. 留学生との交流を図りたいですか？



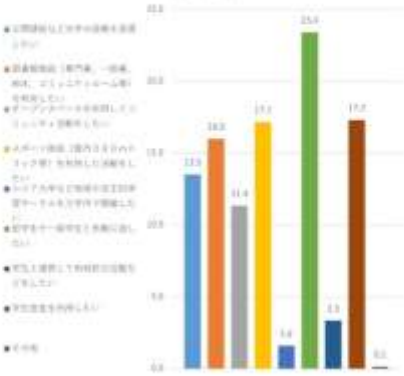
4

全体

Q12. 「強く思う」，「どちらかと言えば思う」と回答した方，具体的にはどのような取り組みを期待していますか？

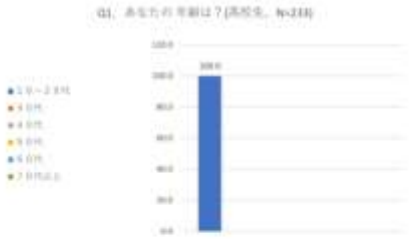


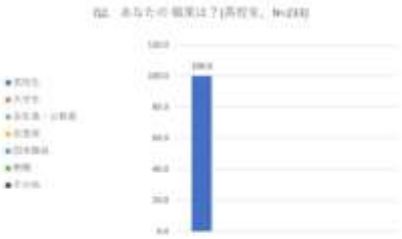
Q13. （花園コミュニティ会議，花巻農業高校生のみ回答）富士大学の施設や取組に期待することはありますか？

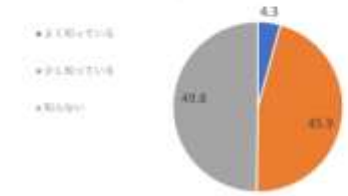


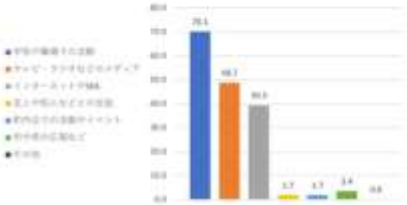
5

高校生



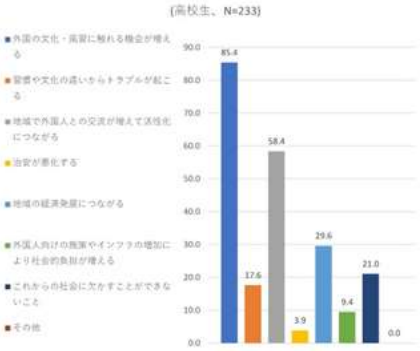


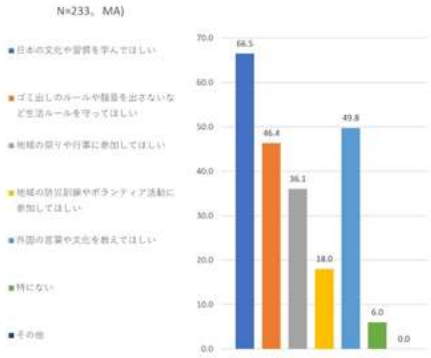




1

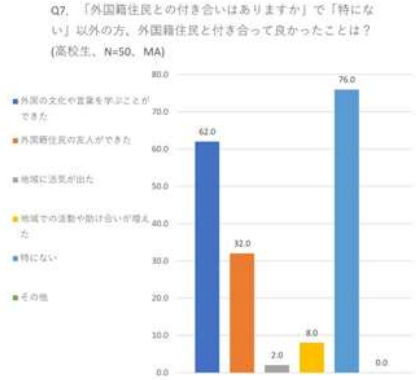
高校生





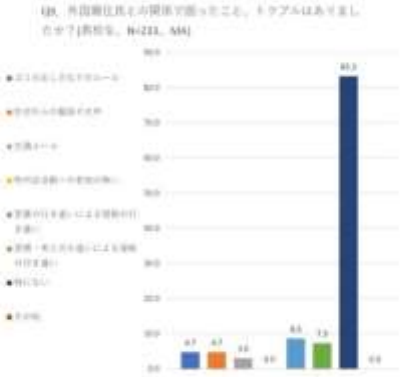
2

高校生



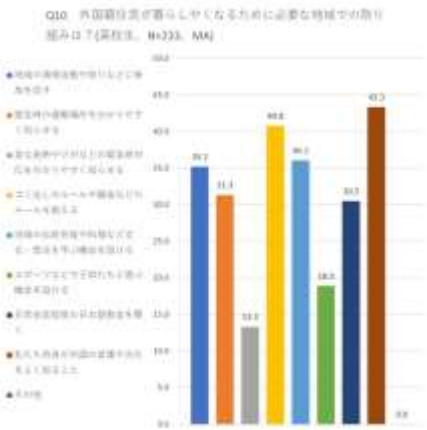
3

高校生



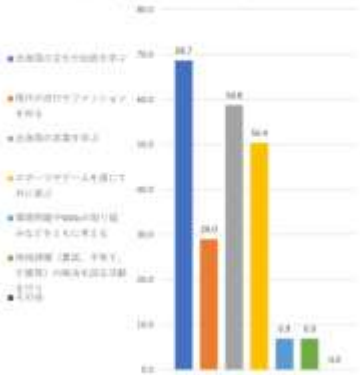
4

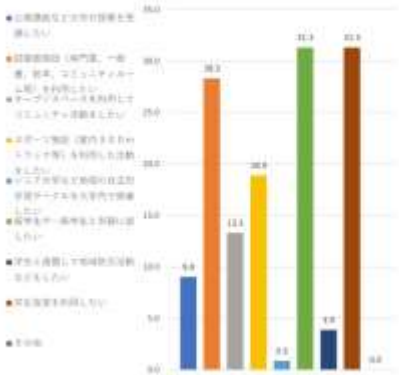
高校生



5

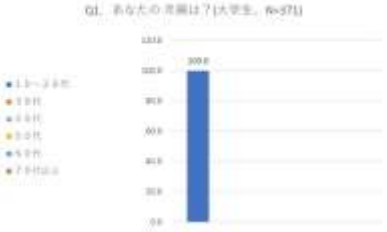
高校生

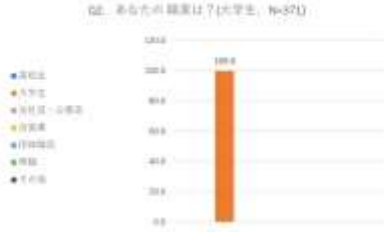


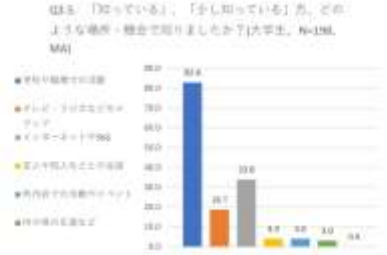


6

大学生

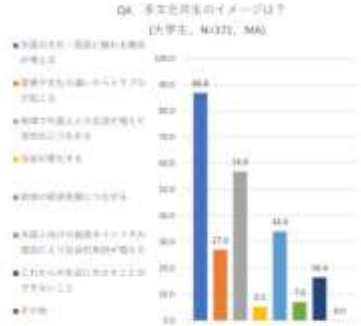






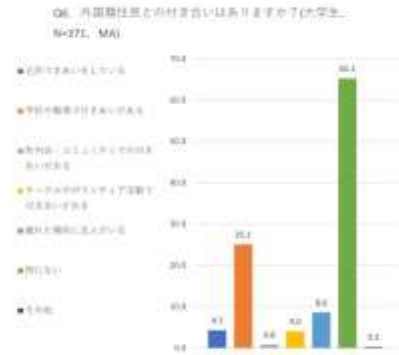
1

大学生



2

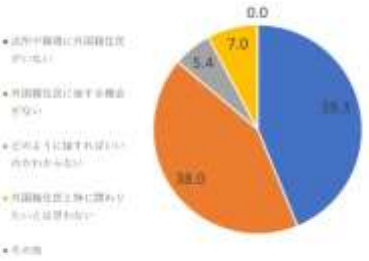
大学生



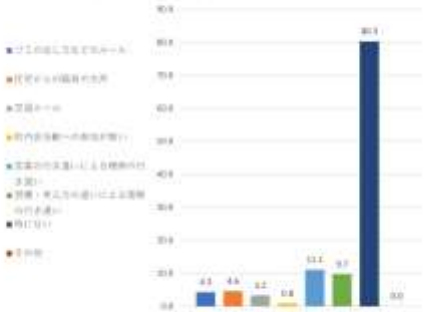
3

大学生

Q8. 「外国籍住民との付き合いはありますか」で「特にない」方、付き合いがない理由は？(大学生、N=242)



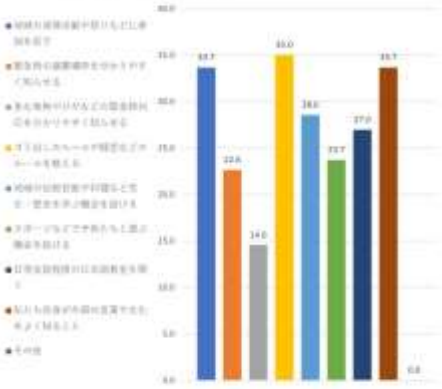
Q9. 外国籍住民との関係で困ったこと、トラブルはありましたか？(大学生、N=171、MA)



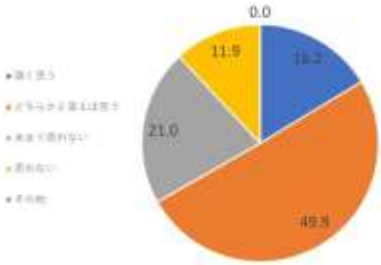
4

大学生

Q10. 外国籍住民が暮らしやすくなるために必要な地域での取り組みは？(大学生、N=171、MA)



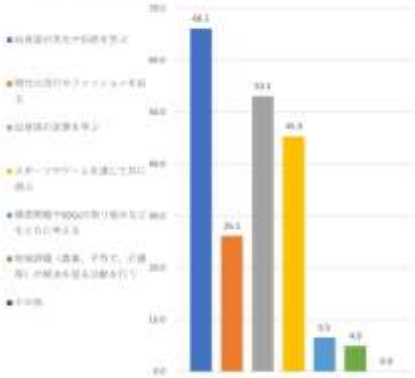
Q11. 留学生との交流を図りたいですか？(大学生、N=171)



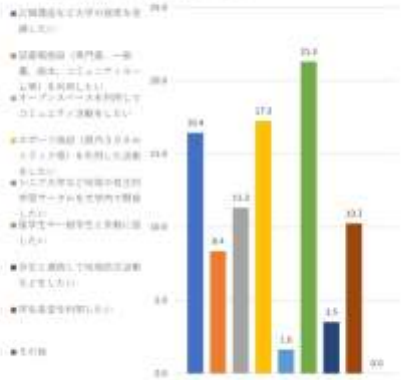
5

大学生

Q12. 「強く思う」、「どちらかと言えば思う」と回答した方、具体的にはどのような取り組みを期待していますか？(大学生、N=245、MA)

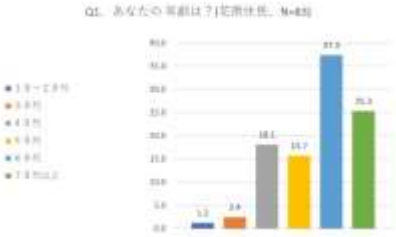


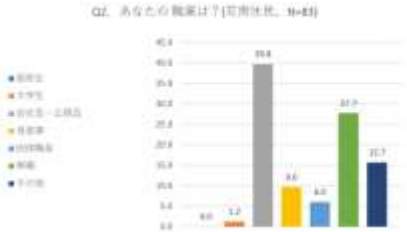
Q13. （市民コミュニティ会議、花巻農業高校生のみ回答）富士大学の施設や取組に期待することはありますか？(大学生、N=171、MA、参考値)

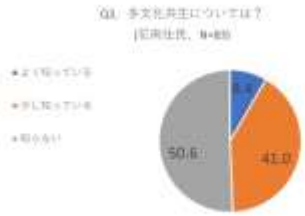


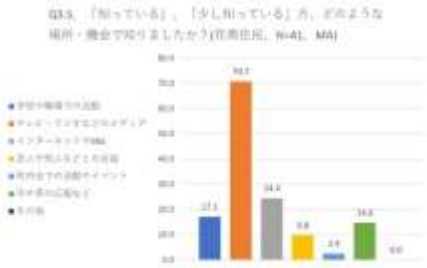
6

花南住民



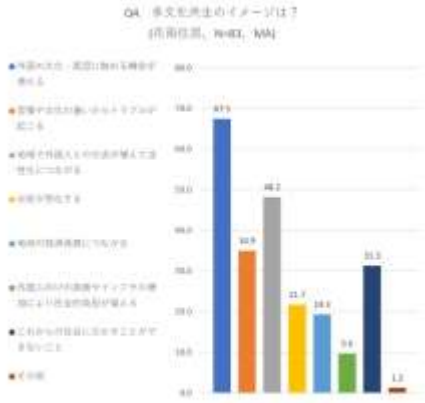






1

花南住民



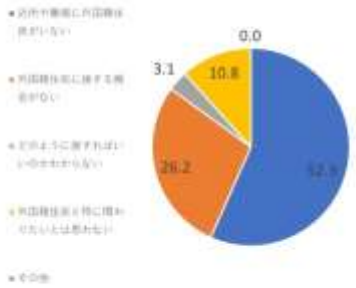
2

花南住民

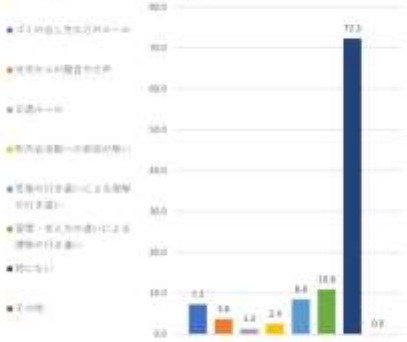
3

花南住民

Q8. 「外国籍住民との付き合いはありますか」で「特にない」方、付き合いがない理由は？(花南住民、N=65)



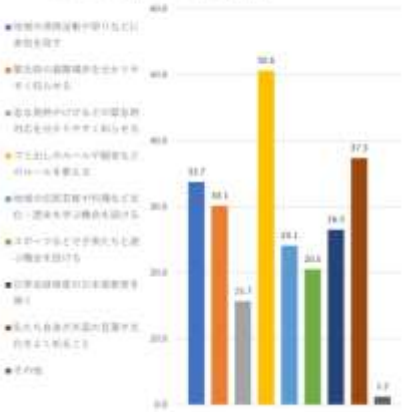
Q9. 外国籍住民との関係で困ったこと、トラブルはありましたか？(花南住民、N=63、MA)



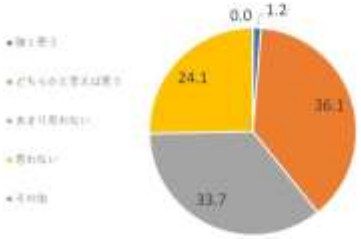
4

花南住民

Q10. 外国籍住民が暮らしやすくなるために必要な地域での取り組みは？(花南住民、N=63、MA)



Q11. 留学生との交流を図りたいですか？(花南住民、N=83)

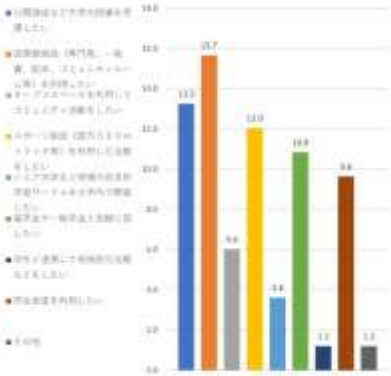


5

花南住民

Q12. 「強く思う」、「どちらかと言えば思う」と回答した方、具体的にはどのような取り組みを期待していますか？(花南住民、N=31、MA)

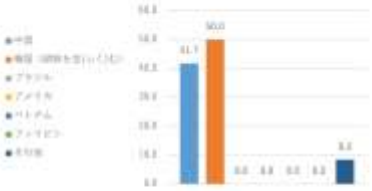
Q13. （花南コミュニティ会議、花市商業振興会のみ回答）富士大学の施設や施設に期待することはありますか？(花南住民、N=83、MA)



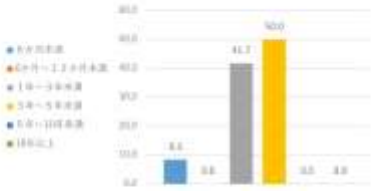
6

留学生

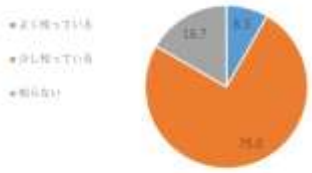
Q3. あなたの国籍は？



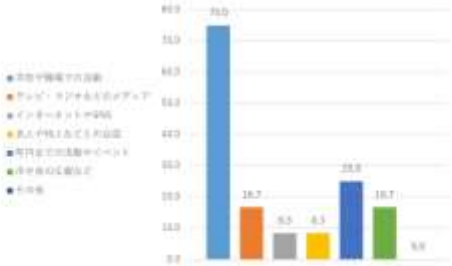
Q4. 住んでいる期間



Q5. 多文化共生については？



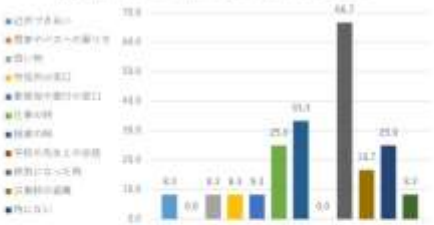
5.5. 「知っている」、「少し知っている」方、どのような場所・機会で知りましたか？



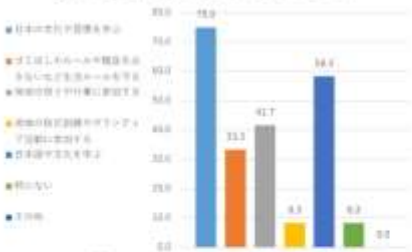
1

留学生

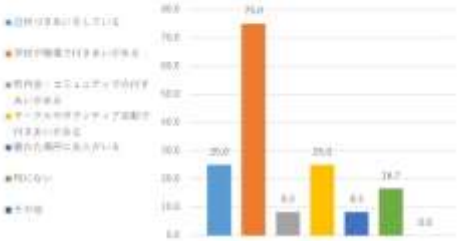
Q6. 日本語を上手に話せなくて困ったことは？



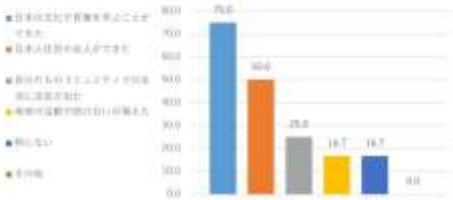
Q7. 日本人との共生のために必要なことは？



Q8. 日本人との付き合いはありますか？



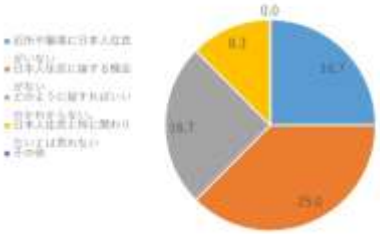
Q9. 「日本人との付き合いはありますか」で「特にない」以外の方、日本人と付き合って良かったことは？



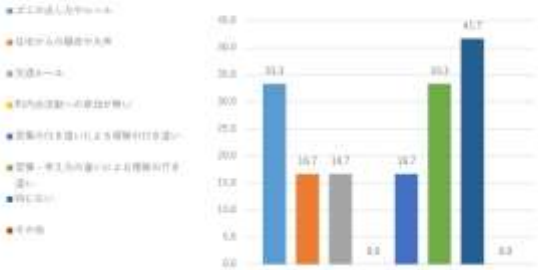
2

留学生

Q10. 「日本人との付き合いはありますか」で「特にない」方、付き合いがない理由は？



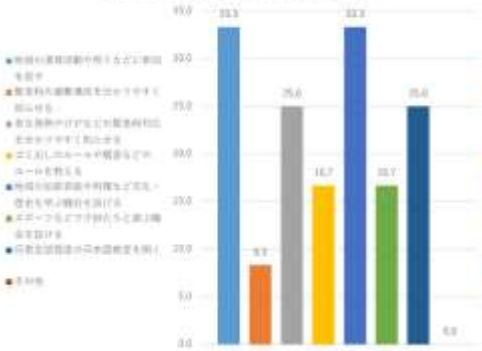
Q11. 日本人との関係で困ったこと、トラブルはありましたか？



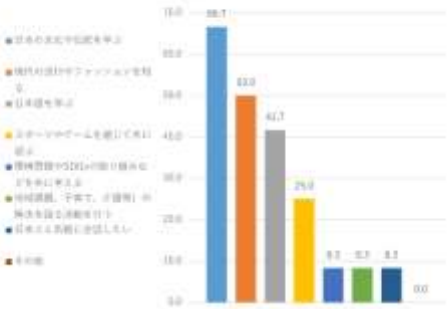
3

留学生

Q12. 地域に対して期待する取り組みは？



Q14. 「日本人との交流を図りたいか」で「強く思う」、「どちらかといえば思う」方、具体的にどのような取り組みを図りたいか？



Q13. 日本人住民や学生との交流を図りたいですか？

4

3）クロス集計

2.クロス集計表

Q3 多文化共生について（人、%）

		Q1.あなたの年齢は？						Q2.あなたの職業は？							Q3.多文化共生について			Q3.5.（「よく知っている」「少し知っている」と回答した方）どのよう							Q4.多文化共生のイメージは（3つまで選択可）								Q5.外国籍住民との共生の為に必要なことは何ですか？（3つまで選択可）						
	回答数	10～20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	高校生	大学生	会社員・公務員	自営業	専業主婦（夫）・無職	無職	その他	よく知っている	少し知っている	知らない	学校や職場での活動	テレビ・ラジオなどのメディア	インターネットやSNS	友人や知人などとの会話	町内会での活動やイベント	市や県の広報など	その他	外国の文化・風習に触れる機会が増える	習慣や文化の違いからトラブルが起こる	地域で外国人との交流が増えて活性化につながる	治安が悪化する	地域の経済発展につながる	外国人向けの施策やインフラの増加により社会負担が増える	これからの社会に欠かすことができないこと	その他	日本の文化や習慣を学んでほしい	ゴミ出しのルールや騒音を出さないなど生活ルールを守ってほしい	地域の祭りや行事に参加してほしい	地域の防災訓練やボランティア活動に参加してほしい	外国の言葉や文化を教えてほしい	特にない	その他
よく知っている	35		0	2	0	3	2	10	18	1	2	0	3	1	35	0	0	26	11	11	3	3	1	0	31	13	21	1	10	1	5	1	26	19	12	7	18	3	1
少し知っている	321	288	0	6	6	11	10	107	181	16	3	0	10	4	0	321	0	227	112	112	11	7	15	0	279	90	192	16	85	23	86	0	248	147	114	38	174	11	0
知らない	331	289	2	7	7	17	9	116	173	16	3	5	10	8	0	0	331	0	0	0	0	1	0	0	267	67	174	29	116	32	45	0	232	144	108	49	148	26	0
よく知っている	100.0	80.0	0.0	5.7	0.0	8.6	5.7	28.6	51.4	2.9	5.7	0.0	8.6	2.9	100.0	0.0	0.0	74.3	31.4	31.4	8.6	8.6	2.9	0.0	88.6	37.1	60.0	2.9	28.6	2.9	14.3	2.9	74.3	54.3	34.3	20.0	51.4	8.6	2.9
少し知っている	100.0	89.7	0.0	1.9	1.9	3.4	3.1	33.3	56.4	5.0	0.9	0.0	3.1	1.2	0.0	100.0	0.0	70.7	34.9	34.9	3.4	2.2	4.7	0.0	86.9	28.0	59.8	5.0	26.5	7.2	26.8	0.0	77.3	45.8	35.5	11.8	54.2	3.4	0.0
知らない	100.0	87.3	0.6	2.1	2.1	5.1	2.7	35.0	52.3	4.8	0.9	1.5	3.0	2.4	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	80.7	20.2	52.6	8.8	35.0	9.7	13.6	0.0	70.1	43.5	31.1	14.8	44.7	7.9	0.0

Q6 外国籍住民との付き合いは（人、%）

		Q1.あなたの年齢は？						Q2.あなたの職業は？							Q3.多文化共生について			Q3.5.（「よく知っている」「少し知っている」と回答した方）どのよう							Q4.多文化共生のイメージは（3つまで選択可）								Q5.外国籍住民との共生の為に必要なことは何ですか？（3つまで選択可）						
	回答数	10～20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	高校生	大学生	会社員・公務員	自営業	専業主婦（夫）・無職	無職	その他	よく知っている	少し知っている	知らない	学校や職場での活動	テレビ・ラジオなどのメディア	インターネットやSNS	友人や知人などとの会話	町内会での活動やイベント	市や県の広報など	その他	外国の文化・風習に触れる機会が増える	習慣や文化の違いからトラブルが起こる	地域で外国人との交流が増えて活性化につながる	治安が悪化する	地域の経済発展につながる	外国人向けの施策やインフラの増加により社会負担が	これからの社会に欠かすことができないこと	その他	日本の文化や習慣を学んでほしい	ゴミ出しのルールや騒音を出さないなど生活ルールを守ってほ	地域の祭りや行事に参加してほしい	地域の防災訓練やボランティア活動に参加してほしい	外国の言葉や文化を教えてほしい	特にない	その他
特にない	490	426	2	10	10	23	19	183	243	22	6	5	19	12	17	222	251	164	86	86	7	6	13	0	400	125	267	37	147	37	101	0	345	226	158	70	230	34	0
特にない以外	197	179	0	5	3	8	2	50	129	11	2	0	4	1	18	99	80	89	37	37	7	5	3	0	177	45	120	9	64	19	35	1	161	84	71	24	110	6	1
近所づき合いをしている	33	32	0	0	0	0	1	16	16	0	1	0	0	0	4	16	13	16	5	9	1	1	2	0	31	7	22	2	10	3	4	0	30	14	17	4	18	0	0
学校職場	128	118	0	5	2	3	0	25	93	8	1	0	1	0	11	63	54	63	22	18	5	3	0	0	120	30	79	4	47	12	22	1	105	51	47	17	78	5	1
町内会	9	6	0	0	0	2	1	3	3	1	1	0	1	0	2	5	2	2	6	4	0	0	0	0	7	5	6	1	2	2	1	0	7	5	4	2	1	1	0
サークル	26	22	0	0	0	2	2	4	18	1	1	0	2	0	3	14	9	9	8	8	0	0	0	0	21	8	18	1	9	3	6	0	21	16	13	7	9	2	0
頼れた場所	52	47	0	1	0	4	0	15	32	3	0	0	1	1	7	19	26	19	7	12	2	1	1	0	43	16	29	5	14	5	10	0	41	22	15	3	32	0	0
特にない	100	86.9	0.4	2.0	2.0	4.7	3.9	37.3	49.6	4.5	1.2	1.0	3.9	2.4	3.5	45.3	51.2	33.5	17.6	17.6	1.4	1.2	2.7	0.0	81.6	25.5	54.5	7.6	30.0	7.6	20.6	0.0	70.4	46.1	32.2	14.3	46.9	6.9	0.0
特にない以外	100	74.3	0.0	2.1	1.2	3.3	0.8	20.7	53.5	4.6	0.8	0.0	1.7	0.4	7.5	41.1	33.2	36.9	15.4	15.4	2.9	2.1	1.2	0.0	73.4	18.7	49.8	3.7	26.6	7.9	14.5	0.4	66.8	34.9	29.5	10.0	45.6	2.5	0.4
近所づき合いをしている	100	97.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	48.5	48.5	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	12.1	48.5	39.4	48.5	15.2	27.3	3.0	3.0	6.1	0.0	93.9	21.2	66.7	6.1	30.3	9.1	12.1	0.0	90.9	42.4	51.5	12.1	54.5	0.0	0.0
学校職場	100	92.2	0.0	3.9	1.6	2.3	0.0	19.5	72.7	6.3	0.8	0.0	0.8	0.0	8.6	49.2	42.2	49.2	17.2	14.1	3.9	2.3	0.0	0.0	93.8	23.4	61.7	3.1	36.7	9.4	17.2	0.8	82.0	39.8	36.7	13.3	60.9	3.9	0.8
町内会	100	66.7	0.0	0.0	0.0	22.2	11.1	33.3	33.3	11.1	11.1	0.0	11.1	0.0	22.2	55.6	22.2	22.2	66.7	44.4	0.0	0.0	0.0	0.0	77.8	55.6	66.7	11.1	22.2	22.2	11.1	0.0	77.8	55.6	44.4	22.2	11.1	11.1	0.0
サークル	100	129.4	0.0	0.0	0.0	11.8	11.8	23.5	105.9	5.9	5.9	0.0	11.8	0.0	17.6	82.4	52.9	52.9	47.1	47.1	0.0	0.0	0.0	0.0	123.5	47.1	105.9	5.9	52.9	17.6	35.3	0.0	123.5	94.1	76.5	41.2	52.9	11.8	0.0
頼れた場所	100	90.4	0.0	1.9	0.0	7.7	0.0	28.8	61.5	5.8	0.0	0.0	1.9	1.9	13.5	36.5	50.0	36.5	13.5	23.1	3.8	1.9	1.9	0.0	82.7	30.8	55.8	9.6	26.9	9.6	19.2	0.0	78.8	42.3	28.8	5.8	61.5	0.0	0.0

Q6で「特にない」とした回答の内訳（人、%）

		Q1.あなたの年齢は？						Q2.あなたの職業は？							Q3.多文化共生について			Q3.5.（「よく知っている」「少し知っている」と回答した方）どのよう							Q4.多文化共生のイメージは（3つまで選択可）								Q5.外国籍住民との共生の為に必要なことは何ですか？（3つまで選択可）						
	回答数	10～20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	高校生	大学生	会社員・公務員	自営業	専業主婦（夫）・無職	無職	その他	よく知っている	少し知っている	知らない	学校や職場での活動	テレビ・ラジオなどのメディア	インターネットやSNS	友人や知人などとの会話	町内会での活動やイベント	市や県の広報など	その他	外国の文化・風習に触れる機会が増える	習慣や文化の違いからトラブルが起こる	地域で外国人との交流が増えて活性化につながる	治安が悪化する	地域の経済発展につながる	外国人向けの施策やインフラの増加により社会負担が	これからの社会に欠かすことができないこと	その他	日本の文化や習慣を学んでほしい	ゴミ出しのルールや騒音を出さないなど生活ルールを守ってほ	地域の祭りや行事に参加してほしい	地域の防災訓練やボランティア活動に参加してほしい	外国の言葉や文化を教えてほしい	特にない	その他
高校生	183	183						183	0	0	0	0	0	0	5	80	98	58	42	33	0	2	3	0	153	29	105	6	60	14	39	0	114	80	68	35	87	14	0
大学生	243	243							243	0	0	0	0	0	7	121	115	103	26	46	3	3	5	0	205	75	134	15	73	17	41	0	182	105	74	19	117	19	0
社会人・その他	128	64						0	0	22	6	5	19	12	5	21	38	3	18	7	4	1	5	0	42	21	28	16	14	6	21	0	49	41	16	16	26	1	0
うち職業・その他	93	31	0	0	1	12	18	0	0	0	0	0	19	12	3	10	18	1	10	1	3	1	3	0	21	8	13	6	7	3	12	0	23	18	7	11	8	1	0
高校生	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7	43.7	53.6	31.7	23.0	18.0	0.0	1.1	1.6	0.0	83.6	15.8	57.4	3.3	32.8	7.7	21.3	0.0	62.3	43.7	37.2	19.1	47.5	7.7	0.0
大学生	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	49.8	47.3	42.4	10.7	18.9	1.2	1.2	2.1	0.0	84.4	30.9	55.1	6.2	30.0	7.0	16.9	0.0	74.9	43.2	30.5	7.8	48.1	7.8	0.0
社会人・その他	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17.2	4.7	3.9	14.8	9.4	3.9	16.4	29.7	2.3	14.1	5.5	3.1	0.8	3.9	0.0	32.8	16.4	21.9	12.5	10.9	4.7	16.4	0.0	38.3	32.0	12.5	12.5	20.3	0.8	0.0
うち職業・その他	100.0	33.3	0.0	0.0	1.1	12.9	19.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.4	12.9	3.2	10.8	19.4	1.1	10.8	1.1	3.2	1.1	3.2	0.0	22.6	8.6	14.0	6.5	7.5	3.2	12.9	0.0	24.7	19.4	7.5	11.8	8.6	1.1	0.0

Q11.留学生との交流を図りたいか？（人、%）

		Q1.あなたの年齢は？						Q2.あなたの職業は？							Q3.多文化共生について			Q3.5.（「よく知っている」「少し知っている」と回答した方）どのよう							Q4.多文化共生のイメージは（3つまで選択可）								Q5.外国籍住民との共生の為に必要なことは何ですか？（3つまで選択可）						
	回答数	10～20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	高校生	大学生	会社員・公務員	自営業	専業主婦（夫）・無職	無職	その他	よく知っている	少し知っている	知らない	学校や職場での活動	テレビ・ラジオなどのメディア	インターネットやSNS	友人や知人などとの会話	町内会での活動やイベント	市や県の広報など	その他	外国の文化・風習に触れる機会が増える	習慣や文化の違いからトラブルが起こる	地域で外国人との交流が増えて活性化につながる	治安が悪化する	地域の経済発展につながる	外国人向けの施策やインフラの増加により社会負担が	これからの社会に欠かすことができないこと	その他	日本の文化や習慣を学んでほしい	ゴミ出しのルールや騒音を出さないなど生活ルールを守ってほ	地域の祭りや行事に参加してほしい	地域の防災訓練やボランティア活動に参加してほしい	外国の言葉や文化を教えてほしい	特にない	その他
強く思う	90	89	0	0	0	0	1	29	60	0	1	0	0	0	9	43	38	40	17	26	2	1	3	0	80	18	53	4	27	5	13	0	63	33	38	12	54	4	0
どちらかといえば思う	317	287	1	7	7	8	7	102	185	13	3	2	6	6	16	178	123	138	65	68	8	9	9	0	279	71	178	11	103	23	72	0	242	135	106	43	186	16	0
あまり思わない	182	155	1	5	4	11	6	76	79	12	2	1	9	3	4	73	105	52	30	16	3	0	3	0	154	51	104	11	56	16	39	0	139	89	57	23	75	10	0
思わない	89	69	0	3	2	10	5	25	44	7	2	2	5	4	4	24	61	21	8	10	1	1	1	0	57	26	37	20	22	11	11	1	55	49	27	15	21	9	1
無回答	9	5	0	0	0	2	2	1	4	1	0	0	3	0	2	3	4	2	3	3	0	0	0	0	7	4	5	0	3	1	1	0	7	4	1	1	4	1	0
強く思う	100.0	98.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	32.2	66.7	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	10.0	47.8	42.2	44.4	18.9	28.9	2.2	1.1	3.3	0.0	88.9	20.0	70.0	4.4	30.0	5.6	14.4	0.0	70.0	36.7	42.2	13.3	60.0	4.4	0.0
どちらかといえば思う	100.0	90.5	0.3	2.2	2.2	2.5	2.2	32.2	58.4	4.1	0.9	0.6	1.9	1.9	5.0	56.2	38.8	43.5	20.5	21.5	2.5	2.8	2.8	0.0	88.0	22.4	56.2	3.5	32.5	7.3	22.7	0.0	76.3	42.6	33.4	13.6	58.7	5.0	0.0
あまり思わない	100.0	85.2	0.5	2.7	2.2	6.0	3.3	41.8	43.4	6.6	1.1	0.5	4.9	1.6	2.2	40.1	57.7	28.6	16.5	8.8	1.6	0.0	1.6	0.0	84.6	28.0	57.1	6.0	30.8	8.8	21.4	0.0	76.4	48.9	31.3	12.6	41.2	5.5	0.0
思わない	100.0	77.5	0.0	3.4	2.2	11.2	5.6	28.1	49.4	7.9	2.2	2.2	5.6	4.5	4.5	27.0	68.5	23.6	9.0	11.2	1.1	1.1	1.1	0.0	64.0	29.2	41.6	22.5	24.7	12.4	12.4	1.1	61.8	55.1	30.3	16.9	23.6	10.1	1.1
無回答	100.0	55.6	0.0	0.0	0.0	22.2	22.2	11.1	44.4	11.1	0.0	0.0	33.3	0.0	22.2	33.3	44.4	22.2	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	77.8	44.4	55.6	0.0	33.3	11.1	11.1	0.0	77.8	44.4	11.1	11.1	44.4	11.1	0.0

Q6.あなた自身は外国籍住民との付き合いはありますか？（3つまで選択可）						
近所づきあいをしている	学校や職場で付き合いがある	町内会・コミュニティでの付き合いがある	サークルやボランティア活動で付き合いがある	頼れる場所に友人がいる	特にない	その他
4	11	2	1	7	17	0
16	68	5	9	19	222	2
13	54	2	7	26	251	0
11.4	31.4	5.7	2.9	20.0	48.6	0.0
5.0	19.6	1.6	2.8	5.9	69.2	0.6
3.9	16.3	0.6	2.1	7.9	75.3	0.0

Q7.（Q6で「特にない」以外を回答した方）外国籍住民と付き合って良かったこと						
外国の文化や言葉を学ぶことができた	外国籍住民の友人ができた	地域に活気が出た	地域での交流や助け合いが増えた	特にない	その他
10	7	1	2	7	0
98	29	10	9	47	1
41	28	4	2	61	0
20.6	20.0	2.9	5.7	20.0	0.0
18.1	9.0	3.1	2.8	14.6	0.3
30.2	27.5	5.1	6.9	18.4	0.0

Q8.（Q6で「特にない」と回答した方）外国籍住民との付き合いがない				
近所や職場に外国籍住民がいない	外国籍住民に接する機会がない	とのように接すれば良いのかわからない	外国籍住民と特に関わりたいとは思わない	その他
12	3	1	0	0
91	94	3	7	0
100	91	17	28	0
34.3	3.6	2.9	0.0	0.0
28.8	29.2	2.5	2.2	0.0
30.2	27.5	5.1	6.9	0.0

Q9.外国籍住民との関係で困ったことやトラブルの経験が有りますか？（3つまで選択可）						
ゴミの出し方などのルール	住宅からの騒音や大声	交通ルール	町内会活動への参加が薄い	言葉の行き違いによる誤解の行き違い	役割・考え方の違いによる誤解の行き違い	特にない	その他
2	6	1	0	6	5	25	0
16	18	13	4	39	32	244	0
15	7	6	1	28	25	283	0
5.7	17.1	2.9	0.0	17.1	14.3	71.4	0.0
5.0	5.6	4.0	1.2	12.1	10.0	76.0	0.0
4.5	2.1	1.3	0.3	6.9	7.6	85.5	0.0

Q10.外国籍住民が暮らしやすくなるために必要な地域での取り組みは何だと思いますか？（3つまで選択可）							
地域の清掃活動や祭りなどに参加を促す	駅前広場の避難場所を分かりやすく知らせる	金融機関やけがなどの緊急時連絡を分かりやすく知らせる	ゴミ出しのルールや資源などのルールを教える	地域の伝統芸能・料理など文化・民史を学ぶ講座を設ける	スポーツなどで手軽に楽しむ講座を設ける	日常会話程度の日本語教室を開く	私たち自身が外国の言葉や文化を学ぶこと	その他
11	13	5	17	12	10	11	15	0
112	91	49	122	103	62	102	131	0
112	73	44	123	95	77	93	111	1
31.4	37.1	14.3	48.6	34.3	23.6	31.4	42.9	0.0
34.9	28.8	15.3	38.0	32.1	19.3	31.8	40.8	0.0
38.8	28.6	13.3	38.7	28.7	23.3	24.2	33.5	0.3

Q6.あなた自身は外国籍住民との付き合いはありますか？（3つまで選択可）						
近所づきあいをしている	学校や職場で付き合いがある	町内会・コミュニティでの付き合いがある	サークルやボランティア活動で付き合いがある	頼れる場所に友人がいる	特にない	その他
0	0	0	0	0	49.0	0
33	123	9	17	52	0	2
33	15	3	3	3	0	0
15	123	2	9	16	0	0
3	2	9	0	0	0	2
6	11	9	17	2	0	0
3	16	0	2	52	0	0
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
12.7	38.1	3.7	7.1	21.6	0.0	0.3
100.0	45.5	9.1	9.1	24.2	0.0	0.0
11.7	100.0	1.6	7.8	12.5	0.0	0.0
33.3	22.2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
35.3	64.7	52.9	100.0	11.8	0.0	0.0
15.4	30.8	0.0	3.8	100.0	0.0	0.0

Q7.（Q6で「特にない」以外を回答した方）外国籍住民と付き合って良かったこと						
外国の文化や言葉を学ぶことができた	外国籍住民の友人ができた	地域に活気が出た	地域での交流や助け合いが増えた	特にない	その他
0	0	0	0	93	0
109	64	15	18	17	1
19	13	5	4	2	0
74	42	12	7	10	0
3	3	2	3	2	0
12	11	4	3	3	0
23	24	4	2	4	1
0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
45.2	26.6	6.2	5.4	7.1	0.4
57.6	54.5	15.2	12.1	6.1	0.0
57.3	32.3	9.4	5.5	7.3	0.0
33.3	33.3	22.2	33.3	22.2	0.0
70.6	64.7	23.5	17.6	17.6	0.0
53.8	46.2	7.7	3.8	7.7	1.9

Q8.（Q6で「特にない」と回答した方）外国籍住民との付き合いがない				
近所や職場に外国籍住民がいない	外国籍住民に接する機会がない	とのように接すれば良いのかわからない	外国籍住民と特に関わりたいとは思わない	その他
203	183	26	30	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
0	0	0	0	0
41.4	33.4	5.3	6.1	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

Q9.外国籍住民との関係で困ったことやトラブルの経験が有りますか？（3つまで選択可）						
ゴミの出し方などのルール	住宅からの騒音や大声	交通ルール	町内会活動への参加が薄い	言葉の行き違いによる誤解の行き違い	役割・考え方の違いによる誤解の行き違い	特にない	その他
18	18	11	0	24	23	424	0
15	18	9	5	44	34	123	0
7	3	3	3	4	4	20	0
7	10	5	2	30	22	35	0
3	1	0	2	2	3	4	0
4	2	1	3	9	7	13	0
4	2	1	1	9	9	33	0
3.7	3.7	2.2	0.0	4.9	5.7	36.5	0.0
6.2	5.4	3.7	2.1	13.3	14.1	53.1	0.0
21.2	9.1	9.1	9.1	12.1	12.1	60.6	0.0
5.5	7.3	3.9	1.6	23.4	17.2	66.4	0.0
33.3	11.1	0.0	22.2	22.2	33.3	44.4	0.0
23.5	11.8	5.9	17.6	52.9	41.2	76.5	0.0
7.7	3.8	1.9	1.9	17.3	17.3	73.1	0.0

Q10.外国籍住民が暮らしやすくなるために必要な地域での取り組みは何だと思いますか？（3つまで選択可）							
地域の清掃活動や祭りなどに参加を促す	駅前広場の避難場所を分かりやすく知らせる	金融機関やけがなどの緊急時連絡を分かりやすく知らせる	ゴミ出しのルールや資源などのルールを教える	地域の伝統芸能・料理など文化・民史を学ぶ講座を設ける	スポーツなどで手軽に楽しむ講座を設ける	日常会話程度の日本語教室を開く	私たち自身が外国の言葉や文化を学ぶこと	その他
170	123	65	187	153	100	137	135	1
65	54	33	30	52	49	96	72	0
15	12	4	10	6	3	9	11	0
40	39	22	49	32	37	33	56	0
2	3	1	5	2	1	2	2	0
3	3	5	15	5	7	4	6	0
17	14	13	22	14	10	13	20	0
34.7	26.1	13.3	38.2	32.2	20.4	28.0	37.3	0.2
27.0	22.4	13.7	38.2	21.6	20.3	28.2	29.9	0.0
45.5	36.4	12.1	30.3	18.2	24.2	27.3	33.3	0.0
31.3	30.5	17.2	38.3	25.0	28.9	29.7	43.3	0.0
22.2	33.3	11.1	55.6	22.2	11.1	22.2	22.2	0.0
47.1	47.1	29.4	38.2	29.4	41.2	23.5	35.3	0.0
32.7	26.9	25.0	42.3	26.9	19.2	34.6	33.5	0.0

Q6.あなた自身は外国籍住民との付き合いはありますか？（3つまで選択可）						
近所づきあいをしている	学校や職場で付き合いがある	町内会・コミュニティでの付き合いがある	サークルやボランティア活動で付き合いがある	頼れる場所に友人がいる	特にない	その他
0	0	0	0	0	133	0
0	0	0	0	0	243	0
0	0	0	0	0	64	0
0	0	0	0	0	31	0
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0

Q7.（Q6で「特にない」以外を回答した方）外国籍住民と付き合って良かったこと						
外国の文化や言葉を学ぶことができた	外国籍住民の友人ができた	地域に活気が出た	地域での交流や助け合いが増えた	特にない	その他
0	0	0	0	33	0
0	0	0	0	61	0
0	0	0	0	4	0
0	0	0	0	4	0
0.0	0.0	0.0	0.0	12.0	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0	25.1	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0

Q8.（Q6で「特にない」と回答した方）外国籍住民との付き合いがない				
近所や職場に外国籍住民がいない	外国籍住民に接する機会がない	とのように接すれば良いのかわからない	外国籍住民と特に関わりたいとは思わない	その他
74	79	11	6	0
95	92	13	17	0
34	17	2	7	0
13	10	1	5	0
40.4	43.2	6.0	3.3	0.0
39.1	37.9	5.3	7.0	0.0
26.6	13.3	1.6	5.5	0.0
14.0	10.3	1.1	5.4	0.0

Q9.外国籍住民との関係で困ったことやトラブルの経験が有りますか？（3つまで選択可）						
ゴミの出し方などのルール	住宅からの騒音や大声	交通ルール	町内会活動への参加が薄い	言葉の行き違いによる誤解の行き違い	役割・考え方の違いによる誤解の行き違い	特にない	その他
7	3	5	0	12	12	159	0
3	10	6	0	11	13	212	0
3	0	0	0	1	3	53	0
2	0	0	0	0	0	25	0
3.3	4.4	2.7	0.0	6.6	6.6	36.9	0.0
3.3	4.1	2.5	0.0	4.5	5.3	37.2	0.0
2.3	0.0	0.0	0.0	0.3	2.3	41.4	0.0
2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	26.9	0.0

Q10.外国籍住民が暮らしやすくなるために必要な地域での取り組みは何だと思いますか？（3つまで選択可）							
地域の清掃活動や祭りなどに参加を促す	駅前広場の避難場所を分かりやすく知らせる	金融機関やけがなどの緊急時連絡を分かりやすく知らせる	ゴミ出しのルールや資源などのルールを教える	地域の伝統芸能・料理など文化・民史を学ぶ講座を設ける	スポーツなどで手軽に楽しむ講座を設ける	日常会話程度の日本語教室を開く	私たち自身が外国の言葉や文化を学ぶこと	その他
66	54	23	63	70	35	54	73	0
82	54	30	33	72	50	69	33	0
22	20	12	31	16	15	14	24	1
10	7	4	13	7	6	6	11	1
36.1	29.5	12.6	37.2	33.3	19.1	29.5	42.6	0.0
33.7	22.2	12.3	36.2	29.6	20.6	23.4	34.2	0.0
17.2	15.6	9.4	24.2	12.5	11.7	10.9	13.3	0.3
10.3	7.5	4.3	19.4	7.5	6.5	6.5	11.3	1.1

Q6.あなた自身は外国籍住民との付き合いはありますか？（3つまで選択可）						
近所づきあいをしている	学校や職場で付き合いがある	町内会・コミュニティでの付き合いがある	サークルやボランティア活動で付き合いがある	頼れる場所に友人がいる	特にない	その他
13	31	3	4	13	43	0
14	71	2	9	25	215	2
3	13	3	2	11	151	0
3	7	1	2	1	76	0
0	1	0	0	2	5	0
14.4	34.4	3.3	4.4	14.4	47.8	0.0
4.4	22.4	0.6	2.8	7.9	67.8	0.6
1.6	9.9	1.6	1.1	6.0	83.0	0.0
3.4	7.9	1.1	2.2	1.1	85.4	0.0
0.0	11.1	0.0	0.0	22.2	55.6	0.0

Q7.（Q6で「特にない」以外を回答した方）外国籍住民と付き合って良かったこと						
外国の文化や言葉を学ぶことができた	外国籍住民の友人ができた	地域に活気が出た	地域での交流や助け合いが増えた	特にない	その他
26	14	4	2	15	0
64	37	3	9	44	0
16	7	3	2	27	1
1	4	0	0	27	0
2	2	0	0	2	0
23.9	15.6	4.4	2.2	16.7	0.0
20.2	11.7	2.5	2.8	13.9	0.0
8.8	3.8	1.6	1.1	14.3	0.5
1.1	4.5	0.0	0.0	33.3	0.0
22.2	22.2	0.0	0.0	22.2	0.0

Q8.（Q6で「特にない」と回答した方）外国籍住民との付き合いがない				
近所や職場に外国籍住民がいない	外国籍住民に接する機会がない	とのように接すれば良いのかわからない	外国籍住民と特に関わりたいとは思わない	その他
13	16	2	2	0
95	83	14	3	0
65	57	6	3	0
24	24	4	16	0
1	3	0	1	0
20.0	17.3	2.2	2.2	0.0
30.0	27.3	4.4	0.9	0.0
35.7	31.3	3.3	4.4	0.0
27.0	27.0	4.5	13.5	0.0
11.1	33.3	0.0	11.1	0.0

Q9.外国籍住民との関係で困ったことやトラブルの経験が有りますか？（3つまで選択可）						
ゴミの出し方などのルール	住宅からの騒音や大声	交通ルール	町内会活動への参加が薄い	言葉の行き違いによる誤解の行き違い	役割・考え方の違いによる誤解の行き違い	特にない	その他
4	3	3	2	17	15	64	0
15	12	9	3	32	25	263	0
10	9	4	0	10	11	150	0
4	7	4	0	7	11	63	0
0	0	0	0	2	0	7	0
4.4	3.3	3.3	2.2	18.9	16.7	71.1	0.0
4.7	3.8	2.8	0.9	10.1	7.9	83.0	0.0
5.5	4.9	2.2	0.0	5.5	6.0	82.4	0.0
4.5	7.9	4.5	0.0	7.9	12.4	76.4	0.0
0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	0.0	77.8	0.0

Q10.外国籍住民が暮らしやすくなるために必要な地域での取り組みは何だと思いますか？（3つまで選択可）							
地域の清掃活動や祭りなどに参加を促す	駅前広場の避難場所を分かりやすく知らせる	金融機関やけがなどの緊急時連絡を分かりやすく知らせる	ゴミ出しのルールや資源などのルールを教える	地域の伝統芸能・料理など文化・民史を学ぶ講座を設ける	スポーツなどで手軽に楽しむ講座を設ける	日常会話程度の日本語教室を開く	私たち自身が外国の言葉や文化を学ぶこと	その他
37	25	16	31	23	31	26	37	0
103	90	52	123	105	63	93	127	0
60	47	21	72	53	33	35	59	0
29	13	3	37	20	16	16	30	1
1	2	1	4	4	1	3	4	0
41.1	27.8	17.8	34.4	25.6	34.4	28.9	41.1	0.0
34.1	28.4	16.4	38.3	33.1	21.5	29.3	40.1	0.0
33.0	25.3	11.5	39.6	31.9	18.1	30.2	32.4	0.0
32.6	20.2	9.0	41.6	22.5	13.0	13.0	33.7	1.1
11.1	22.2	11.1	44.4	44.4	11.1	33.3	44.4	0.0

Q11.あなたは留学生との交流を図りたいと思っていますか?					Q12.(「強く思う」、「どちらかと言えば思う」と回答した方)(3つまで選択可)							Q13.(花南コミュニティ会議、花巻長東高校生のみ回答)富士大学の施設や機能に期待することはありますか(3つまで選択								
強く思う	どちらかと言えば思う	あまり思わない	思わない	その他	出身国の文化や伝統を学ぶ	現代の流行やファッションを知る	出身国の言葉を学ぶ	スポーツやゲームを通じて共に遊ぶ	環境問題やSDGsの取り組みなどをともに考える	地域課題(貧事、子育て、介護等)の解決を図る活動を行う	その他	公開講座など大学の授業を受講したい	図書館施設(専門誌、一般書、絵本、コミュニティルーム等)を利用したい	オープンスペースを利用してコミュニティ活動をしたい	スポーツ施設(屋内30mトラック等)を利用した活動をしたい	シニア大学など地域の自主的学習サークルを大学内で開催したい	留学生や一般学生と気軽に話したい	学生と連携して地域防災活動などをしたい	学生食堂を利用したい	その他
9	16	4	4	0	18	5	10	15	3	4	0	10	9	4	5	1	9	1	5	0
43	178	73	24	0	169	49	123	101	18	14	1	44	53	38	50	7	73	14	50	0
38	123	105	61	0	92	49	86	71	10	12	0	39	48	36	63	3	79	8	64	1
25.7	45.7	11.4	11.4	0.0	51.4	14.3	28.6	42.9	8.6	11.4	0.0	28.6	25.7	11.4	14.3	2.9	25.7	2.9	14.3	0.0
13.4	55.5	22.7	7.5	0.0	52.6	15.3	38.3	31.5	5.6	4.4	0.3	13.7	16.5	11.8	15.6	2.2	22.7	4.4	15.6	0.0
11.5	37.2	31.7	18.4	0.0	27.8	14.8	26.0	21.5	3.0	3.6	0.0	11.8	14.5	10.9	19.0	0.9	23.9	2.4	19.3	0.3

Q11.あなたは留学生との交流を図りたいと思っていますか?					Q12.(「強く思う」、「どちらかと言えば思う」と回答した方)(3つまで選択可)							Q13.(花南コミュニティ会議、花巻長東高校生のみ回答)富士大学の施設や機能に期待することはありますか(3つまで選択								
強く思う	どちらかと言えば思う	あまり思わない	思わない	その他	出身国の文化や伝統を学ぶ	現代の流行やファッションを知る	出身国の言葉を学ぶ	スポーツやゲームを通じて共に遊ぶ	環境問題やSDGsの取り組みなどをともに考える	地域課題(貧事、子育て、介護等)の解決を図る活動	その他	公開講座など大学の授業を受講したい	図書館施設(専門誌、一般書、絵本、コミュニティルーム等)を	オープンスペースを利用してコミュニティ活動をしたい	スポーツ施設(屋内30mトラック等)を利用した活動を	シニア大学など地域の自主的学習サークルを大学内で開	留学生や一般学生と気軽に話したい	学生と連携して地域防災活動などをしたい	学生食堂を利用したい	その他
43	215	151	76	0	173	55	139	114	23	21	1	62	84	50	80	7	109	15	92	1
47	102	31	13	0	106	48	80	73	8	9	0	31	26	28	38	4	52	8	27	0
13	14	3	3	0	20	9	16	13	1	1	0	6	5	6	6	1	15	2	8	0
31	71	18	7	0	73	37	54	51	6	8	0	19	17	19	28	3	36	6	17	0
3	2	3	1	0	4	0	3	3	0	0	0	2	2	0	2	0	1	0	1	0
7	11	5	3	0	9	6	10	8	0	1	0	5	3	4	10	1	4	0	4	0
13	25	11	1	0	26	13	24	17	1	3	0	12	6	9	7	1	16	1	5	0
8.8	43.9	30.8	15.5	0.0	35.3	11.2	28.4	23.3	4.7	4.3	0.2	12.7	17.1	10.2	16.3	1.4	22.2	3.1	18.8	0.2
19.5	42.3	12.9	5.4	0.0	44.0	19.9	33.2	30.3	3.3	3.7	0.0	12.9	10.8	11.6	15.8	1.7	21.6	3.3	11.2	0.0
39.4	42.4	9.1	9.1	0.0	60.6	27.3	48.5	39.4	3.0	3.0	0.0	18.2	15.2	18.2	18.2	3.0	45.5	6.1	24.2	0.0
24.2	55.5	14.1	5.5	0.0	57.0	28.9	42.2	39.8	4.7	6.3	0.0	14.8	13.3	14.8	21.9	2.3	28.1	4.7	13.3	0.0
33.3	22.2	33.3	11.1	0.0	44.4	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	22.2	22.2	0.0	22.2	0.0	11.1	0.0	11.1	0.0
41.2	64.7	29.4	17.6	0.0	52.9	35.3	58.8	47.1	0.0	5.9	0.0	29.4	17.6	23.5	58.8	5.9	23.5	0.0	23.5	0.0
25.0	48.1	21.2	1.9	0.0	50.0	25.0	46.2	32.7	1.9	5.8	0.0	23.1	11.5	17.3	13.5	1.9	30.8	1.9	9.6	0.0

Q11.あなたは留学生との交流を図りたいと思っていますか?					Q12.(「強く思う」、「どちらかと言えば思う」と回答した方)(3つまで選択可)							Q13.(花南コミュニティ会議、花巻長東高校生のみ回答)富士大学の施設や機能に期待することはありますか(3つまで選択								
強く思う	どちらかと言えば思う	あまり思わない	思わない	その他	出身国の文化や伝統を学ぶ	現代の流行やファッションを知る	出身国の言葉を学ぶ	スポーツやゲームを通じて共に遊ぶ	環境問題やSDGsの取り組みなどをともに考える	地域課題(貧事、子育て、介護等)の解決を図る活動	その他	公開講座など大学の授業を受講したい	図書館施設(専門誌、一般書、絵本、コミュニティルーム等)を	オープンスペースを利用してコミュニティ活動をしたい	スポーツ施設(屋内30mトラック等)を利用した活動を	シニア大学など地域の自主的学習サークルを大学内で開	留学生や一般学生と気軽に話したい	学生と連携して地域防災活動などをしたい	学生食堂を利用したい	その他
17	77	67	22	0	58	26	56	48	7	5	0	12	53	22	34	1	53	6	58	0
26	113	65	37	0	93	29	74	57	10	8	0	40	21	23	39	3	49	8	28	0
0	25	19	17	0	22	0	9	9	6	8	1	10	10	5	7	3	7	1	6	1
0	12	8	8	0	8	0	4	2	5	4	1	4	5	2	4	2	3	1	2	0
9.3	42.1	36.6	12.0	0.0	31.7	14.2	30.6	26.2	3.8	2.7	0.0	6.6	29.0	12.0	18.6	0.5	29.0	3.3	31.7	0.0
10.7	46.5	26.7	15.2	0.0	38.3	11.9	30.5	23.5	4.1	3.3	0.0	16.5	8.6	9.5	16.0	1.2	20.2	3.3	11.5	0.0
0.0	19.5	14.8	13.3	0.0	17.2	0.0	7.0	7.0	4.7	6.3	0.8	7.8	7.8	3.9	5.5	2.3	5.5	0.8	4.7	0.8
0.0	12.9	8.6	8.6	0.0	8.6	0.0	4.3	2.2	5.4	4.3	1.1	4.3	5.4	2.2	4.3	2.2	3.2	1.1	2.2	0.0

Q11.あなたは留学生との交流を図りたいと思っていますか?					Q12.(「強く思う」、「どちらかと言えば思う」と回答した方)(3つまで選択可)							Q13.(花南コミュニティ会議、花巻長東高校生のみ回答)富士大学の施設や機能に期待することはありますか(3つまで選択								
強く思う	どちらかと言えば思う	あまり思わない	思わない	その他	出身国の文化や伝統を学ぶ	現代の流行やファッションを知る	出身国の言葉を学ぶ	スポーツやゲームを通じて共に遊ぶ	環境問題やSDGsの取り組みなどをともに考える	地域課題(貧事、子育て、介護等)の解決を図る活動	その他	公開講座など大学の授業を受講したい	図書館施設(専門誌、一般書、絵本、コミュニティルーム等)を	オープンスペースを利用してコミュニティ活動をしたい	スポーツ施設(屋内30mトラック等)を利用した活動を	シニア大学など地域の自主的学習サークルを大学内で開	留学生や一般学生と気軽に話したい	学生と連携して地域防災活動などをしたい	学生食堂を利用したい	その他
90	0	0	0	0	69	28	55	45	4	3	0	17	17	15	21	2	33	0	14	0
0	317	0	0	0	207	75	164	141	25	24	1	47	48	39	57	6	97	17	51	0
0	0	182	0	0	2	0	0	0	1	1	0	20	31	16	27	2	24	4	37	0
0	0	0	89	0	1	0	0	1	0	2	0	8	12	8	13	1	7	2	16	1
0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	0	0	0	0	0	1	0
100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	76.7	31.1	61.1	50.0	4.4	3.3	0.0	18.9	18.9	16.7	23.3	2.2	36.7	0.0	15.6	0.0
0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	65.3	23.7	51.7	44.5	7.9	7.6	0.3	14.8	15.1	12.3	18.0	1.9	30.6	5.4	16.1	0.0
0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5	0.0	11.0	17.0	8.8	14.8	1.1	13.2	2.2	20.3	0.0
0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	1.1	0.0	0.0	1.1	0.0	2.2	0.0	9.0	13.5	9.0	14.6	1.1	7.9	2.2	18.0	1.1
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	0.0

３．運営体制（各回の参加者）の記録

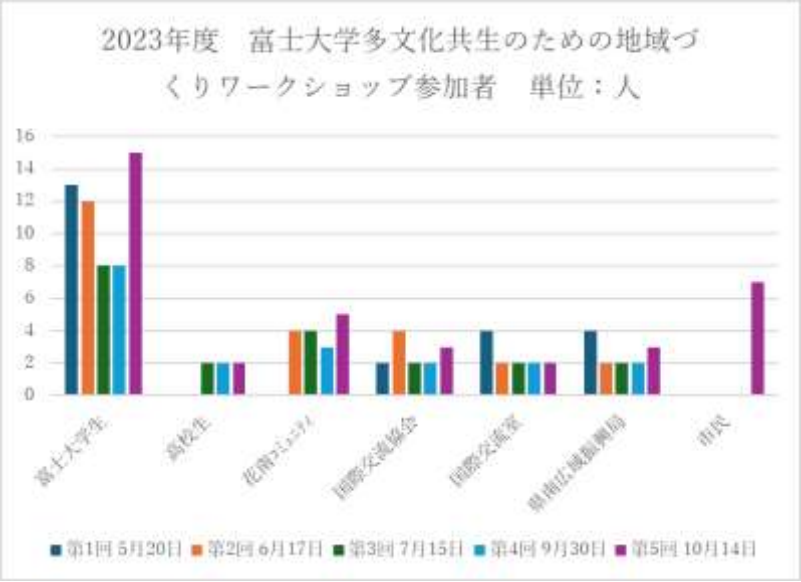
第１回	多文化共生の地域づくりのためのワークショップ	参加者
	富士大学学生（留学生含む）	13 名
	高校生	０名
	花南地区コミュニティメンバー	０名
	国際交流協会	２名
	県南広域振興局	４名
	計	19 名
第２回	多文化共生の地域づくりのためのワークショップ	参加者
	富士大学学生（留学生含む）	12 名
	高校生	０名
	花南地区コミュニティメンバー	４名
	国際交流協会	４名
	国際交流室	３名
	県南広域振興局	２名
	計	25 名
第３回	多文化共生の地域づくりのためのワークショップ	参加者
	富士大学学生（留学生含む）	８名
	高校生	２名
	花南地区コミュニティメンバー	４名
	国際交流協会	２名
	県南広域振興局	２名
	計	18 名
第４回	多文化共生の地域づくりのためのワークショップ	参加者
	富士大学学生（留学生含む）	８名
	高校生	２名
	花南地区コミュニティメンバー	３名
	国際交流協会	２名
	県南広域振興局	２名
	計	17 名
第５回	多文化共生の地域づくりのためのワークショップ	参加者
	富士大学学生（留学生含む）	15 名
	高校生	２名
	花南地区コミュニティメンバー	５名

国際交流協会	３名
国際交流室	１名
県南広域振興局	３名
市民	７名
計	36 名

第１回から第５回までの延べ人数

富士大学学生（留学生含む）	56 名
高校生	６名
花南地区コミュニティメンバー	16 名
国際交流協会	13 名
国際交流室	４名
県南広域振興局	13 名
市民	７名
計	115 名

多文化共生のための地域社会づくりワークショップ（ＷＳ）の各回の参加人数と第１～５回目までの参加人数の延べ数は以上の通りとなった。
下記にこれらの数値を基に図にしたものを掲載する。



注）多文化共生のための地域づくりワークショップの参加者人数把握に当たり、学生は事前登録制を第一に、当日出席者については極力実数に近づけた。他の項目についても同様のものとして掲載した。なお、富士大学異文化交流センター並びに学内関係者は上記人数より除外した。